

HP System Management Homepage

HP 部品番号: 466304-191
2008年11月
第 16 版



目次

1	製品の概要	9
	HP SIM	9
	統合管理ツール	9
	HP-UX System Administration Manager (SAM) の非推奨	9
	追加資料	10
	関連項目	10
2	開始するには	11
	関連項目	11
	サインイン	11
	Internet ExplorerからのHP SMHの起動	12
	MozillaまたはFirefoxからのHP SMHの開始	13
	HP SIMからのHP SMHの開始	13
	HP-UXコマンド ラインからの開始	14
	HP SMH管理サーバ	14
	関連項目	14
	ファイアウォールの設定	15
	Windows	15
	Linux	15
	Red Hat Enterprise Linux 4および5	15
	SUSE Linux Enterprise Server	16
	関連項目	17
	HP-UXのタイムアウトの設定	17
	SMHサービス タイムアウトの設定	17
	SMHセッション タイムアウトの設定	17
	関連項目	18
	証明書の自動インポート	18
	関連項目	18
	サインアウト	19
	関連項目	19
3	ソフトウェアのナビゲート	21
	[情報領域]	22
	関連項目	23
	HP SMHページ	24
	関連項目	24
4	[ホーム]ページ	25
	[全体のステータス概要]	25
	[システム ステータス]	25
	デフォルトのHP-UXプロパティ ページ	25
	[System]	25
	[Operating System]	25
	[Network]	25
	[Software]	25
	[Storage]	25
	関連項目	26
5	[設定]ページ	27
	関連項目	29
	メニュー (HP-UXのみ)	29

関連手順.....	29
関連項目.....	29
[Add Custom Menu] (HP-UXのみ)	29
関連項目.....	30
[Remove Custom Menu] (HP-UXのみ)	30
関連項目.....	30
SMHデータ ソース管理.....	30
関連項目.....	31
SNMPの設定.....	31
関連項目.....	31
UIオプション.....	31
関連項目.....	31
UIプロパティ.....	31
関連手順.....	32
関連項目.....	32
ユーザ初期設定.....	32
関連手順.....	33
関連項目.....	33
セキュリティ.....	33
関連項目.....	34
[匿名/ローカル アクセス].....	34
関連手順.....	35
関連項目.....	35
[IP バインド].....	35
関連手順.....	36
関連項目.....	37
[IP限定ログイン].....	37
関連手順.....	37
関連項目.....	38
[ローカル サーバ証明書].....	38
関連手順.....	39
関連項目.....	39
別名証明書.....	39
関連手順.....	39
関連項目.....	40
ポート2301.....	40
関連手順.....	40
関連項目.....	40
タイムアウト.....	40
セッション タイムアウト.....	41
UIタイムアウト.....	41
関連手順.....	41
関連項目.....	42
[信頼モード].....	42
信頼モードの設定.....	42
関連手順.....	43
関連項目.....	44
[信頼済みマネジメント サーバ].....	44
関連手順.....	44
関連項目.....	44
Kerberos権限手順.....	44
.....	44
HP SMH Kerberos認証.....	45
Kerberos管理者	46
Kerberosオペレータ	47
Kerberosユーザ	47
関連手順.....	47
関連項目.....	48
[ユーザ グループ].....	48

管理者グループ.....	49
オペレータ グループ.....	49
ユーザ グループ.....	50
関連手順.....	50
関連項目.....	50
6 [タスク]ページ.....	51
System (HP-UXのみ)	51
関連項目.....	51
7 [ツール]ページ (HP-UXのみ)	53
関連項目.....	53
8 [ログ]ページ.....	55
関連手順.....	55
関連項目.....	55
System Management Homepageログ.....	55
関連項目.....	56
SAMログ.....	56
関連項目.....	56
Httpdエラー ログ.....	56
関連項目.....	57
サポートされる言語.....	57
関連手順.....	57
関連項目.....	58
9 [Webアプリケーション]ページ.....	59
関連項目.....	59
10 [サポート]ページ.....	61
関連項目.....	61
11 [ヘルプ]ページ.....	63
[Search Form].....	63
関連項目.....	63
[クレジット].....	63
関連項目.....	63
12 コマンド ライン インタフェース設定.....	65
匿名アクセス.....	65
ローカル アクセス.....	65
IP限定ログイン.....	65
[IP バインド].....	66
信頼モード.....	66
サービスの再起動.....	67
プログラム管理者ログインの拒否.....	67
Win32DisableAcceptEX.....	67
SSL v2の無効化.....	67
ログ ローテーション.....	67
ローテーション ログ サイズ.....	67
可能な最大スレッド数.....	67
セッションの最大数.....	68
セッション タイムアウト.....	68

IP変更の監視.....	68
ログ レベル.....	68
ポート 2301.....	68
マルチホームされた証明書別名リスト.....	68
カスタムUI.....	69
Httpdエラー ログ.....	69
アイコン ビュー.....	69
ボックス順.....	69
ボックス項目順.....	69
Kerberos認証.....	69
ユーザ グループ.....	70
ヘルプ メッセージ.....	70
ファイルベースコマンド ライン インタフェース	70
関連項目.....	71
13 ファイルの位置.....	73
関連項目.....	73
14 トラブルシューティング.....	75
サービスおよびサポート.....	84
15 ご注意.....	85
保証.....	85
米国政府ライセンス.....	85
著作権表示.....	85
商標表示.....	85
出版履歴.....	85
リビジョン履歴.....	85
用語集.....	87
索引.....	93

表目次

2-1	ツールチップ ボックス.....	12
2-2	ファイアウォールの例外.....	15
3-1	ステータス アイコン.....	23
5-1	設定ページ リンク.....	27
5-2	セキュリティ オプション.....	33
5-3	UIプロパティ オプション.....	31
5-4	ユーザ設定オプション.....	32
5-5	セキュリティ オプション.....	33
5-6	タイムアウト設定.....	41
5-7	エラー メッセージ.....	45
8-1	ログのコード化されたエントリ.....	55
8-2	サポートされる言語のロケール名.....	57
8-3	サポートされる言語のサフィックス.....	57
12-1	CLI引数.....	65
12-2	ログ レベル.....	68
13-1	HP SMHファイルの位置.....	73
14-1	ファイアウォール保護の例外.....	81

第1章 製品の概要

HP System Management Homepage (HP SMH) は、HP-UX、Linux (x86、AMD64、およびインテル Itanium)、およびMicrosoft® Windows®のオペレーティング システム上で、HPサーバ用の単一のシステム管理を統合して簡素化するWebベースのインタフェースです。

HP Webベース エージェントおよびマネジメント ユーティリティからのデータを統合することで、HP SMHは次の情報を共通の使いやすいインタフェースで表示することができます。

- ハードウェア障害およびステータス監視
- パフォーマンス データ
- システム スレッシュホールド
- 診断
- 個々のサーバのソフトウェア バージョン コントロール

HP-UXシステムの場合、HP SMHはSysMgmtWebのバンドル タグを持ち、HP-UX 11i v1 (B.11.11)、HP-UX 11i v2 (B.11.23)、およびHP-UX 11i v3 (B.11.31) のオペレーティング環境を含む、すべてのHP-UXバージョンにデフォルトでインストールされます。

HP SIM

HP SMHは、*HP Systems Insight Manager* (HP SIM) と強固に統合されています。HP SIM内の[システム リスト]ページおよび[System Pages]からHP SMHに簡単に移動できます。



注記: デフォルトでHP SIMの証明書を受け入れるようになっています。詳しくは、「[信頼済みマネジメント サーバ]」を参照してください。

また、HP SMHベースのプラグインに直接アクセスするHP SIMツール ([設定]→[HP-UX設定]カテゴリの下) もいくつかあります。

統合管理ツール

HP SMHは、Webベースのシステム管理のための管理サーバを提供します。

HP-UXでは、Webベースの管理機能を提供するために*HP-UX System Administration Manager* (SAM) の主要な機能が強化されており、HP SMHベースで使用できるようになりました。これには、Partition Management、Peripheral Devices、Disks & File Systems、Users and Groups、Kernel Configurationなどの領域が含まれます。

HP-UX System Administration Manager (SAM) の非推奨

HP-UX System Administration Manager (SAM) は、システム管理タスクを実行するためのツールを提供するHP-UXのシステム管理ツールです。HP-UX 11i v3 (B.11.31) リリースでは、SAMは推奨されません。SAMの拡張バージョンであるHP SMHは、HP-UXの管理するためのツールとしておすすめします。

HP SMHは、HP-UXを管理するためにグラフィカル ユーザ インタフェース (GUI)、ターミナル ユーザ インタフェース (TUI)、およびコマンド ライン インタフェース (CLI) を提供します。smhコマンド (/usr/sbin/smh) を使用すると、これらのインタフェースにアクセスできます。smh(1M)コマンドと同じ動作をする、sam(1M)コマンドを使用することもできますが、最初に推奨しない旨のメッセージが表示されます。

管理タスクを実行する多くのアプリケーションは、WebベースGUIインタフェースおよび拡張されたTUIで利用できるようになりました。ただし、X WindowsベースのObAMまたはTUIベースのObAMを使用するアプリケーションがいくつかあります。

システム管理者のいくつかの機能領域が廃止されました。これらの領域は、HPテクニカルドキュメントのWebサイト <http://docs.hp.com/ja> からアクセスできる、HP-UX 11i リリース ノートにリストされています。

追加資料

- Software Depot home<http://www.hp.com/go/softwaredepot>のHP SMH
 - **HP-UXの場合**
[Security and manageability]を選択して、次にHP System Management Homepage [HP-UX]の順に選択します。
 - **Linuxの場合**
[Linux]、[HP Integrity Essentials Foundation Pack for Linux]の順に選択します。
- HP Insight Essentials Softwareページ<http://www.hp.com/jp/servers/manage>
- **HP System Management Homepage リリース ノート** リリース ノートには、リリースの最新情報、機能と変更点、システム要件、および既知の問題についての説明が記載されています。リリース ノートは、HPテクニカル ドキュメントのWebサイト<http://docs.hp.com/ja>に掲載されています。
- **HP System Management Homepageヘルプ システム** HP SMHの使用、保守、トラブルシューティングに関するドキュメントが含まれています。HP SMHアプリケーションから、[ヘルプ]メニューにアクセスします。
- **HP System Management Homepageインストール ガイド** インストールガイドには、HP SMHをインストールして使用開始するための情報が記載されています。このガイドは、HP SMHに関連する基本的な概念、定義、および機能について説明しています。インストールガイドは、HPテクニカル ドキュメントのWebサイト<http://docs.hp.com/ja>に掲載されています。LinuxおよびWindowsリリースでは、インストール ガイドは、Management CDおよびHP SMHのマニュアルライブラリhttp://www.hp.com/jp/proliantessentials_manualから利用可能です。
- **HP System Management Homepageユーザ ガイド** ユーザ ガイドには、HP SMHの使用、保守、トラブルシューティングに関するドキュメントが含まれています。LinuxとWindowsでは、このガイドは、HPテクニカル ドキュメントのWebサイト<http://docs.hp.com/ja>に掲載されています。HP-UXでは、HPは印刷されたユーザ ガイドを用意していません。HP SMHの使用、保守、およびトラブルシューティングについての情報は、HP SMHオンライン ヘルプを参照してください。
- **Next generation single-system management on HP-UX 11i v2 (B.11.23)** HP SMHとそのプラグインを紹介するWhite Paperです。このドキュメントに記載されているHP SMHとプラグインの用途は、HP SMHで提供される機能を顕著に表しています。White Paperは、HPテクニカル ドキュメントのWebサイトに<http://docs.hp.com/en/4AA0-4052ENW/4AA0-4052ENW.pdf>として掲載されています。
- **hpsmh(1M)マンページ** HP-UXでは、コマンドラインからman hpsmhコマンドを使用してマンページが利用できます。この情報は、LinuxおよびWindowsでは利用できません。
- **smhstartconfig(1M)マンページ** HP-UXでは、コマンドラインからman smhstartconfigコマンドを使用してマンページが利用できます。この情報は、LinuxおよびWindowsでは利用できません。
- **sam(1M)マンページ** HP-UXでは、コマンドラインからman samコマンドを使用してマンページを参照できます。この情報は、LinuxおよびWindowsでは利用できません。SAM機能の機能変更については、この文書の前のセクションで説明されています。

関連項目

- 開始するには
- HP SMHページ

第2章 開始するには

HP System Management Homepage (HP SMH) の使用を開始する際は、以下の手順を実行して、HP SMH を適切に設定し、ユーザとセキュリティ プロパティを設定してください。

HP SMHを設定するには、以下の手順に従ってください。

- HP-UXオペレーティングシステム環境では、HP SMHは、デフォルト設定でインストールされます。次のファイルの環境変数とタグ値を変更して、設定を変更することができます。
 - `/opt/hpsmh/sbin/envvars`
 - `/opt/hpsmh/conf.common/smhpd.xml`
 - `/opt/hpsmh/conf/timeout.conf`
- Linuxオペレーティングシステム環境では、HP SMHは、デフォルト設定でインストールされます。設定は、`/usr/local/hp` (Linux x86およびx64システムの場合) または `/opt/hp/hpsmh/smhconfig/hpSMHSetup.sh` (Itaniumシステムの場合) にあるperlスクリプト (`hpSMHSetup.pl`) を使用して変更できます。
- Windowsオペレーティングシステム環境では、インストール時にHP SMHを設定できます。



注記: HP-UX、Linux、およびWindowsオペレーティングシステムの設定を変更するには、HPテクニカルドキュメントWebサイト <http://docs.hp.com/ja/> に掲載されている *HP System Management Homepage* インストール ガイドを参照してください。

ユーザ アクセスとセキュリティ プロパティを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. ユーザの権限を効率的に管理するためにユーザ グループを追加します。
「[ユーザ グループ]」を参照してください。
2. 信頼モードを設定します。
「[信頼モード]」を参照してください。
3. ローカル アクセスまたは匿名アクセスを設定します。
「[匿名/ローカル アクセス]」を参照してください。

関連項目

- サインイン
- ファイアウォールの設定
- 証明書の自動インポート
- サインアウト

サインイン

[サイン イン] ページから、利用可能な *HP Insight* マネジメント エージェントが含まれている [ホーム] ページにアクセスできます。

[サイン イン ページ] には、次のものがあります。

- **[ユーザ グループ]** 設定項目で設定された有効なグループの一部であるアカウントからユーザ名とパスワードを入力する2つのフィールド。
- 入力フィールド下の2つのボタン：
 - **[サイン イン]** ユーザ名とパスワードの値を検証します。どちらも有効な場合は、HP SMH メイン ページが表示されます。
 - **[クリア]** 入力値を削除します。
- 疑問符のアイコン (?) は、認証メカニズムとサインイン プロセスについての情報のあるフローティング ツールチップ ボックスを表示したり、非表示にしたりします。

表 2-1 ツールチップ ボックス

名前	説明
ユーザ名	ユーザは、SMHに受け入れられるユーザ グループに含まれる必要があります。
パスワード	ユーザ名とパスワードは、有効なユーザと一致する必要があります。
サインイン	Validates user name sign-in to SMHへのユーザ名サインインを検証します。
クリア	ユーザ名およびパスワード入力フィールドを削除します。
?	ツールチップ ボックスの表示/非表示
チェックボックス	選択されたマネジメント サーバ証明書を自動的にインポートします。これは、HP SIMからSSOを使用し、信頼モードがTrustByCertに設定されている場合に適用されます。



注記: サインイン試行でエラーが発生したら、**[サイン イン]**ページに戻ります。

設定メカニズムによって、管理者は画像と**[サイン イン]**ページのメッセージをカスタマイズすることができます。管理者は、カスタム ロゴと警告メッセージを使用することができます。ページがロードされると、HP SMHはパーソナライズされたコンテンツが有効で使用可能かどうかを検証します。コンテンツが使用可能な場合は、HP SMHは標準画像と警告メッセージを使用します。

Internet ExplorerからのHP SMHの起動

Internet ExplorerでHP SMHにサインインするには、以下の手順に従ってください。

1. **https://ホスト名:2381/**にナビゲートします。

初めてこのURIにアクセスすると、**[セキュリティの警告]**ダイアログ ボックスが表示され、サーバを信頼するかどうかを尋ねられます。**証明書**をインポートしない場合は、HP SMHにアクセスするたびに**[セキュリティの警告]**が表示されます。

HP-UXサーバを参照する場合は、**http://ホスト名:2301/**を使用する必要があります。

デフォルトでは、HP-UXのインストールはautostart機能を有効にします。デーモンはポート2301を監視し、ポート2381からリクエストされたHP SMHを開始し、タイムアウト時間が経過すると停止します。常にポート2381で動作するようにHP SMHを設定することもできます。詳しくは、**smhstartconfig(1M)**コマンドを参照してください。

[Start on Boot] 機能が有効な場合（[autostart]の代わりに）、メッセージ ウィンドウにセキュリティ機能についての説明が表示されます。2381ポートにリダイレクトされるまで数秒ほど待つか、メッセージの下リンクをクリックします。[System Management Homepage sign in]ページが表示されます。

設定を変更する手順については、HPテクニカル ドキュメントWebサイト <http://docs.hp.com/ja/> に掲載されている**HP System Management Homepageインストール ガイド**を参照してください。



注記: 管理対象の各システムに利用者自身の**パブリック キー インフラストラクチャ**（PKI）を実装したり、利用者が自分で作成した証明書をインストールしたりするには、管理に使用するブラウザに**認証機関ルート証明書**をインストールできます。ルート証明書がインストールされている場合、**[セキュリティの警告]**ダイアログ ボックスは表示されません。このアラートが表示された場合は、間違ったシステムにアクセスしている可能性があります。**認証機関ルート証明書**のインストール手順について詳しくは、ブラウザのオンライン ヘルプを参照してください。

2. **[はい]**をクリックします。

[サイン イン]ページが表示されます。インストール中に**[匿名]**アクセスを有効にした場合は、System Management Homepageが表示されます。

3. オペレーティング システムによって認識されているユーザ名を入力します。
 - **HP-UX** HP SMHは、最初は、ルート ユーザのみアクセスを許可します。
 - **Linux** HP SMHは、初期状態で、ルート オペレーティング システム グループに属すユーザのみアクセスを許可します。
 - **Windows** HP SMHは、管理者オペレーティング システム グループに属すユーザのみアクセスを許可します。

ユーザ証明書が本物であることが確認できない場合、ユーザはアクセスを拒否されます。

初期状態でアクセスが許可されたユーザでHP SMHにログインしたら、他のオペレーティング システム グループのユーザにセキュリティの設定を行うアクセス権を与えてください。

[administrator] (Windows) および *[root]* (HP-UXおよびLinux) は、HP SMHに対する管理者アクセス権を持ちます。

4. オペレーティング システムによって認識されているパスワードを入力します。
5. **[サイン イン]**をクリックします。
System Management Homepageが表示されます。

MozillaまたはFirefoxからのHP SMHの開始

MozillaまたはFirefoxでHP SMHにサインインするには、以下の手順に従ってください。

1. **https://ホスト名:2381/**にナビゲートします。
デフォルトでは、HP-UXのインストールはautostart機能を有効にします。デーモンはポート2301を監視し、ポート2381からリクエストされたHP SMHを開始し、タイムアウト時間が経過すると停止します。常にポート2381で動作するようにHP SMHを設定することもできます。詳しくは、*smhstartconfig(1M)*コマンドを参照してください。
[Start on Boot] 機能が有効な場合 ([autostart] の代わりに)、メッセージ ウィンドウにセキュリティ機能についての説明が表示されます。2381ポートにリダイレクトされるまで数秒ほど待つか、メッセージの下リンクをクリックします。[System Management Homepage sign in] ページが表示されます。
設定を変更する手順については、HPテクニカル ドキュメントWebサイト <http://docs.hp.com/ja/> に掲載されている *HP System Management Homepage* インストール ガイドを参照してください。
2. **[OK]**をクリックします。
[サイン イン] ページが表示されます。インストール中に**[匿名]**アクセスを有効にした場合は、System Management Homepageが表示されます。
3. オペレーティング システムによって認識されているユーザ名を入力します。
 - **HP-UX** HP SMHは、最初は、ルート ユーザのみアクセスを許可します。
 - **Linux** HP SMHは、初期状態で、ルート オペレーティング システム グループに属すユーザのみアクセスを許可します。
 - **Windows** HP SMHは、管理者オペレーティング システム グループに属すユーザのみアクセスを許可します。

[administrator] (Windows) および *[root]* (HP-UXおよびLinux) は、HP SMHに対する管理者アクセス権を持ちます。
4. オペレーティング システムによって認識されているパスワードを入力します。
5. **[サイン イン]**をクリックします。
System Management Homepageが表示されます。

HP SIMからのHP SMHの開始

WebブラウザでHP SIMにサインインしてHP SMHを開始するには、以下の手順に従ってください。

1. <https://ホスト名:50000/>にナビゲートします。

初めてこのリンクにアクセスすると、**[セキュリティの警告]**ダイアログ ボックスが表示され、サーバを信頼するかどうかを尋ねられます。**証明書**をインポートしない場合は、Systems Insight Manager (HP SIM) にアクセスするたびに**[セキュリティの警告]**が表示されます。



注記: 管理対象の各システムにカスタムパブリック キー インフラストラクチャ (PKI) を実装したり、利用者が自分で作成した証明書をインストールしたりするには、管理に使用するブラウザに認証機関ルート証明書をインストールできます。ルート証明書がインストールされている場合、**[セキュリティの警告]**ダイアログ ボックスは表示されません。このアラートが表示された場合は、間違ったシステムにアクセスしている可能性があります。**認証機関ルート証明書**のインストール手順について詳しくは、ブラウザのオンライン ヘルプを参照してください。

2. **[はい]**をクリックします。
[サイン イン]ページが表示されます。
3. オペレーティング システムによって認識されているユーザ名を入力します。
4. オペレーティング システムによって認識されているパスワードを入力します。
5. **[サイン イン]**をクリックします。
6. **[ツール]→[システム情報]→[System Management Homepage]**を選択します。
7. リストからターゲット システムを選択します。
8. 対象のシステムの横にあるチェックボックスを選択し、**[適用]**をクリックします。
9. システムの隣にあるチェックボックスを選択して、ターゲット システムを検証します。次に、**[今すぐ実行]**をクリックします。
サーバを信頼するかどうかを確認する**[セキュリティの警告]**ダイアログ ボックスが表示されます。**証明書**をインポートしない場合は、HP SMHにアクセスするたびに**[セキュリティの警告]**が表示されます。
System Management Homepageが表示されます。

HP-UXコマンド ラインからの開始

samまたはsmhコマンドを実行して、DISPLAY環境変数を設定する場合、HP SMHはデフォルトのWebブラウザを開きます。DISPLAY環境変数が設定されていない場合は、HP SMHはTUIで開きます。管理タスクを実行する多くのアプリケーションは、WebベースGUIインタフェースおよび拡張されたTUIで利用できるようになりました。ただし、XWindowsベースのObAMまたはTUIベースのObAMを使用するアプリケーションがいくつかあります。

smh(1M)コマンドを使用することをおすすめします。ただし、sam(1M)コマンドは、継続して利用可能となり、smh(1M)コマンドと同じ動作になります。システム管理者のいくつかの機能領域が廃止されました。これらの領域は、HPテクニカルドキュメントのWebサイト<http://docs.hp.com/ja>からアクセスできる、HP-UX 11iリリース ノートにリストされています。

HP SMH管理サーバ

デフォルトでは、HP-UXのHP SMH管理サーバは必要なときにのみ開始されます。継続的に実行されません。デーモンは管理サーバのインスタンスを開始するために、ポート2301を監視します。Linuxでは、起動時にHP SMHが開始します。

関連項目

- 開始するには
- ファイアウォールの設定
- 証明書の自動インポート
- サインアウト
- HP SMHページ

ファイアウォールの設定

Windows

Windows XP Service Pack 2およびWindows Server 2003 SBSを含む特定のオペレーティング システムは、ファイアウォールを実装しているため、ブラウザがバージョンコントロールレポジトリ マネージャにアクセスするために必要なポートにアクセスできません。この問題を解決するには、[例外]を使用してファイアウォールを設定し、ブラウザがHP SIMとバージョン コントロール レポジトリ マネージャによって使用されるポートにアクセスできるようにしてください。



注記: Windows XP Service Pack 2の場合、このファイアウォール設定によってSP2のセキュリティ強化はデフォルトのままになりますが、トラフィックはポートを経由できるようになります。このポートは、バージョン コントロール レポジトリ マネージャを実行するために必要です。ブラウザで正しく通信するには、セキュア ポートと非セキュア ポートの両方を追加する必要があります。

ファイアウォールを設定するには、次のように操作します。

1. **[スタート]→[設定] [コントロール パネル]**の順に選択します。
2. **[Windowsファイアウォール]**をダブルクリックして、ファイアウォールの設定を指定します。
3. **[例外]**を選択します。
4. **[ポートの追加]**をクリックします。
5. 次の製品名およびポート番号情報を入力します。

ファイアウォール保護に、次の表にある例外を追加します。

表 2-2 ファイアウォールの例外

製品	ポート番号
HP SMHの非セキュア ポート :	2301
HP SMHのセキュア ポート :	2381

6. **[OK]**をクリックして設定を保存し、**[ポートの追加]**ダイアログ ボックスを閉じます。
7. **[OK]**をクリックして設定を保存し、**[Windowsファイアウォール]**ダイアログ ボックスを閉じます。

Linux

ファイアウォールは、インストールされているLinuxのバージョンによって設定方法が異なります。

Red Hat Enterprise Linux 4および5

以下のリストは、/etc/sysconfig/iptablesファイル内の、Red Hat Enterprise Linux 4および5のiptablesファイアウォール ルールの例を示しています。

```
# Firewall configuration written by redhat-config-securitylevel
# Manual customization of this file is not recommended.

*filter
:INPUT ACCEPT [0:0]
:FORWARD ACCEPT [0:0]
:OUTPUT ACCEPT [0:0]
:RH-Firewall-1-INPUT - [0:0]
-A INPUT -j RH-Firewall-1-INPUT
-A FORWARD -j RH-Firewall-1-INPUT
-A RH-Firewall-1-INPUT -i lo -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -p icmp --icmp-type any -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -p 50 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -p 51 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state ESTABLISHED,RELATED -j ACCEPT
```

```

-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 80 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 21 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 22 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -j REJECT --reject-with icmp-host-prohibited
COMMIT

```

以下のリストは、/etc/sysconfig/iptablesファイル内の、HP SMHにアクセスを許可するRed Hat Enterprise Linux 4および5のiptablesファイアウォール ルールの新しい値を示しています。

```

# Firewall configuration written by redhat-config-securitylevel
# Manual customization of this file is not recommended.
*filter
:INPUT ACCEPT [0:0]
:FORWARD ACCEPT [0:0]
:OUTPUT ACCEPT [0:0]
:RH-Firewall-1-INPUT - [0:0]
-A INPUT -j RH-Firewall-1-INPUT
-A FORWARD -j RH-Firewall-1-INPUT
-A RH-Firewall-1-INPUT -i lo -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -p icmp --icmp-type any -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -p 50 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -p 51 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state ESTABLISHED,RELATED -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 80 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 21 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 22 -j ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 2301 -j
ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -m state --state NEW -m tcp -p tcp --dport 2381 -j
ACCEPT
-A RH-Firewall-1-INPUT -j REJECT --reject-with icmp-host-prohibited
COMMIT

```

SUSE Linux Enterprise Server

SUSE Linux Enterprise Server 9および10のファイアウォールは、YAST2ユーティリティを使用して設定します。

ファイアウォールを設定するには、次のように操作します。

1. YAST2ユーティリティで、**[Security & Users]**→**[Firewall]**の順に選択します。
[Firewall Configuration (Step 1 of 4):Basic Settings]ウィンドウが表示されます。
2. **[次へ]**をクリックします。
[Firewall Configuration (Step 2 of 4):Services]ウィンドウが表示されます。
3. **[Additional Services]**フィールドに、2301:2381と入力し、**[Next]**をクリックします。
[Firewall Configuration (Step 3 of 4):Features]ウィンドウが表示されます。
4. **[次へ]**をクリックします。
[Firewall Configuration (Step 4 of 4):Logging Options]ウィンドウが表示されます。

5. **[次へ]**をクリックします。
設定を保存してファイアウォールを有効にするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
6. **[Continue]**をクリックします。
ファイアウォールが設定され、ユーザの設定が保存されます。

関連項目

- 開始するには
- サインイン
- 証明書の自動インポート
- サインアウト
- HP SMHページ

HP-UXのタイムアウトの設定

2つのHP SMHタイムアウト設定を変更できます。

- **SMHサービス タイムアウト** HP SMHサーバが停止するまでの合計時間を分単位で設定します。
- **SMHセッション タイムアウト** HP SMH GUIセッションが停止するまでの合計時間を分単位で設定します。



注記: **[Session never expires]**チェックボックスを選択すると、3分ごとにバックグラウンドでリクエストを送信することで、HP SMHセッションがタイムアウトするのを防ぐことができます。このオプションを選択すると、HP SMHサービスがタイムアウトすることも防ぐことができます。**[session never expires]**は、HP-UXシステムのみで使用可能です。

SMHサービス タイムアウトの設定

HP SMHサービス タイムアウト設定は、分単位でHP SMHタイムアウトを設定することができます。サービス タイムアウトを定義しないか0に設定すると、HP SMHはサービス タイムアウトなしで起動します。サービス タイムアウトがHP SMHセッション タイムアウトよりも少ない場合、HP SMHはHP SMHセッション タイムアウトの3分後に停止します。

HP SMHが「**automatic startup on boot**」起動モードを使用している場合、サービス タイムアウト無しでHP SMHが起動します。

サービス タイムアウト設定を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. 既存の/opt/hpsmh/conf/timeout.confファイルを別のディレクトリにコピーします。
2. 以下の手順でtimeout.confファイルを編集します。
 - a. テキスト エディタで/opt/hpsmh/conf/timeout.confを開きます。
 - b. 以下の行を9分よりも大きい値に指定します。
`TIMEOUT-SMH=30`
 - c. ファイルを保存して終了します。
3. HP SMHサービスを再起動します。

SMHセッション タイムアウトの設定

HP SMHセッション タイムアウト設定は、分単位でHP SMHタイムアウトを設定することができます。セッション タイムアウト時間にユーザの操作がない場合、HP SMH GUIセッションは停止します。

セッション タイムアウトが定義されていない場合、デフォルトの15分に設定されます。

セッション タイムアウト設定を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. 既存のsmhpd.xmlファイルを別のディレクトリにコピーします。
ファイルは、下記のパスにあります。

HP-UX /opt/hpsmh/conf.common/smhpd.xml

2. 以下の手順でsmhpd.xmlファイルを編集します。
 - a. テキスト エディタを使用し、smhpd.xml ファイルを開きます。
/opt/hpsmh/conf.common/smhpd.xml
 - b. <system-management-homepage>と</system-management-homepage>タグの間に次の行を追加します。

<session-timeout>value</session-timeout>
valueを1〜60の値に置き換えます。
 - c. ファイルを保存して終了します。
3. HP SMHサービスを再起動します。

関連項目

- 開始するには
- サインイン
- 証明書の自動インポート
- サインアウト
- HP SMHページ

証明書の自動インポート

[管理サーバ証明書の自動インポート]機能により、HP SIMシステムからHP SMHにアクセスする際にHP SIM 証明書を自動的にインポートすることができます。



注記: HP SIMの証明書を自動的にインポートするには、HP SMHに対する管理者アクセス権を持つアカウントでログインしている必要があります。

HP SIMの証明書を自動的にインポートするには、以下の手順に従ってください。

1. **HP Systems Insight Manager**または**HP Insight マネージャ7**システムから、システムへのリンクを選択します。

HP SMH（**[設定]**-**[セキュリティ]**-**[信頼モード]**）で**[証明書による信頼]**オプションが選択されていて、アクセスしているHP SIMシステムの証明書が**[信頼された証明書リスト]**にインポートされていない場合は、**[Sign In]**ページに**[管理サーバ証明書の自動インポート]**オプションが表示されます。サーバ名から取得された証明書情報によって、HP SIMの証明書の詳細が表示されます。
2. HP SIMの証明書を**[信頼された証明書リスト]**に追加しない場合は、**[Automatically Import Management Server Certificate]**の選択を解除します。このオプションの選択を解除してもログイン証明書を入力する必要がありますが、管理者証明書がなくてもログインできます。ただし、管理者の証明書はログインする必要はありません。

HP SMHがHP SIMを自動的にインポートできるようにした場合は、システムへの将来のアクセスはシームレスになります。ログイン証明書は求められません。
3. **[管理サーバ証明書の自動インポート]**が選択された状態で、HP SMHの証明書を入力し、**[サインイン]**をクリックします。これにより、証明書が自動的にインポートされます。

証明書が**[信頼済み証明書リスト]**に追加されます。

関連項目

- 開始するには
- サインイン
- ファイアウォールの設定
- サインアウト
- セキュリティ

サインアウト

HP SMHは、以下のいずれかの方法でサインアウトできます。

- HP SMHバナーで、**[サイン アウト]**をクリックします。
HP System Management Homepage **[サイン イン]**ページが表示されます。
- HP SMHにサインインするために使用したWebブラウザのすべてのインスタンスを閉じます。

関連項目

- [開始するには](#)
- [サインイン](#)
- [ファイアウォールの設定](#)
- [証明書の自動インポート](#)
- [HP SMHページ](#)

第3章 ソフトウェアのナビゲート

HP System Management Homepage (HP SMH) では、情報を提供するすべてのHP Webベース システム マネジメント ソフトウェアが表示されます。さらに、HP SMHには、各種のカテゴリ（ボックス）が表示され、各ボックスのアイコンが項目のステータスを示します。詳しくは、「[ホーム]ページ」を参照してください。

HP SMHメイン ページは、2つの領域に分かれます。ヘッダと標準コンテナです。

- **ヘッダ フレーム** ヘッダ フレームは、どのページを表示しているときでも常に表示されます。さらに、次の4つの下位領域が含まれます。
 - **マスタ ヘッダ。** リンクは、表示中のパス、ユーザ、および**[サイン アウト]**リンクを表示します。
 - **メニュー。** 各項目は、次のようなページまたはセクションへの直接のリンクです。
 - [ホーム]
 - [設定]
 - [タスク]
 - [ツール]
 - [ログ]
 - [Webアプリケーション]
 - [サポート]
 - [ヘルプ]
 - **メイン タイトル領域。** マスタ ヘッダおよびメニューの下領域は、次の項目を含む4つの部分に分けられます。
 - **タイトル。** 表示中のページのセクションのタイトル。
 - **ホスト名。** システムの名前。
 - **システム モデル。** サーバ用のHP Insightマネジメント エージェントがシステムにインストールされていない場合、モデルは**[不明]**と表示されます。
 - **マネジメント プロセッサ。** マネジメント プロセッサの名前。
 - **データ ソース。** マネジメント データに含まれるソースを示します。たとえば、WBEM for HP Insight Management WBEM ProviderまたはSNMP for HP Insightマネジメント エージェントなどです。ソースがインストールされていない場合、データ文字列は表示されません。
 - **アイコン。** クリックすることでアイコンおよびリスト ビュー モードを切り替えることのできるオプション。
 - **パンくず。** 4つの部分に分かれるメイン タイトルの下の領域。
 - 第1レベル メニュー項目
 - **説明。** クリックするとwebappsの可能なすべてのステータスを表示するフローティング ボックスを表示するリンク。
 - **更新。** ヘッダおよび情報領域を再ロードするリンク。
 - **時刻。** ページがロードされた時刻を表示します。時刻領域をマウス オーバすると、ページがロードされた日付が表示されます。
- **データ フレーム。** 標準コンテナは、セクションまたはページを次のものとして包含します。
 - ボックス
 - アイコン

- 図形としてのページ
- サポート
- ヘルプ
- Webアプリケーション

データ フレームには、システム上のすべてのHP Webベース システム マネジメント ソフトウェア およびユーティリティのステータスが表示されます。

[情報領域]

ご使用のオペレーティング システム（HP-UX、Linux、またはWindows）により、ヘッダ フレームまたはデータ フレームに次のような情報が表示されます。

- **HP SMH ページ**
 - 「サインイン」
 - 「[ホーム]ページ」
 - 「[設定]ページ」
 - 「[タスク]ページ」
 - 「[ツール]ページ（HP-UXのみ）」
 - 「[ログ]ページ」
 - 「[Webアプリケーション]ページ」
 - 「[サポート]ページ」
 - 「[ヘルプ]ページ」
- **現在のユーザ。** [現在のユーザ]には、サインインしているユーザIDが表示されます。
 - ユーザがオペレーティング システム ベース ユーザの場合は、**[サイン アウト]**リンクが表示されます。
 - 匿名アクセスが有効な場合は、**[現在のユーザ]**に[サイン イン]リンクが表示されます。
 - ローカル アクセスが有効にされている場合は、**[現在のユーザ]**に - ユーザ タイプが**[local_access_administrator]**である場合は、サインインまたはサインアウト リンクは表示されません。
- **ボックス。** ボックスは、項目の一覧に、結果のステータスとともに、webappsの結果を表示します。
 - 全体のステータス アイコンは、ボックス内で最も悪いステータスを示します。タイトルとともにタイトル バーに表示されます。
 - タイトル バーの下は、ボックス内の項目の一覧です。各項目では、名前の左にステータス アイコンが表示されることがあります。
 - ボックスのフッタ内には、項目が5行の制限を超えた場合に項目の合計数を含めるためにクリックするとボックスの高さを拡張するリンクのある拡張ラインがあります。
- **ローディング画面。** 項目が選択されると、ページのロード プロセス中にステータス インジケータが**ローディング画面**として表示されます。これによって、ユーザは最初に選択した後で他の項目を選択できなくなります。
- **列の数。** リスト ビュー モードで各行に表示されるボックスまたは列の数は、表示解像度設定で定義されています。たとえば、解像度が800x600に設定されている場合は、1行に3つのボックスのみが表示されます。より解像度が大きければ、ボックスの表示数は4つになります。
- **注。** 注は、右側のセクションで、ほとんどのページで使用されています。これらの注は、コントロールの使用方法和使用すべき値の種類が記述されています。

- **アイコン ビュー。** アイコンは、項目とセクションに対して表示されます。アイコンをクリックすると、別のページが表示され、その項目がアイコンになります。ボックス内の項目のステータスを表示するには、アイコンをマウス オーバして、インストールされているアプリケーションの**クリティカル**、**メジャー**、**マイナー**および**警告**のステータスの合計を含むツールチップを表示します。
- **タイムアウト警告。** タイムアウトに設定した時間制限内にSMHにページをロードしない場合に、タイムアウト警告は、右側のページ フッタにフローティング ボックスとして表示されます。
- **ページ内のダイナミック リスト。** ページに追加または削除したい項目ごとに動的に作成された要素の一覧が表示されます。次のページに対して使用可能です。
 - [IP バインド]
 - [IP限定ログイン]
 - [信頼 モード]
 - [[Kerberos 認証](#)]
 - [ユーザ グループ]
- **説明：** インストールされたwebappsの可能なすべてのステータスを表示するフローティング ボックスを表示するリンク。

表 3-1 ステータス アイコン

アイコン	ステータス
	クリティカル
	メジャー
	マイナー
	警告
	正常
	無効
	不明
	情報

- **マネジメント プロセッサ。** リモートInsightボードLights-Out Edition (RLOE) ボードまたは Integrated Lights-Out (iLO) ボードへのリンクが表示されます。この情報は、HP Insightマネジメント エージェントにより提供されます。この情報を提供するHP Webベース システム マネジメント ソフトウェアがインストールされていない場合は、**なし**と表示されます。

関連項目

- 開始するには
- [ホーム]ページ
- [設定]ページ
- [タスク]ページ
- [ツール]ページ (HP-UXのみ)
- [ログ]ページ
- [Webアプリケーション]ページ

- [\[サポート\]ページ](#)
- [\[ヘルプ\]ページ](#)

HP SMHページ

HP SMHには、参加しているHP Webベース システム マネジメント ソフトウェアに関連するコンフィギュレーション データへのアクセスや設定を可能にする、9つのページがあります。**[タスク]**ページおよび**[ツール]**ページは、HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアがそれらの情報を提供する場合に表示されます。

HP SMHページには、次のものが含まれます。

- 「開始するには」
- 「[ホーム]ページ」
- 「[設定]ページ」
- 「[タスク]ページ」
- 「[ツール]ページ（HP-UXのみ）」
- 「[ログ]ページ」
- 「[Webアプリケーション]ページ」
- 「[サポート]ページ」
- 「[ヘルプ]ページ」

関連項目

- [製品の概要](#)
- [ソフトウェアのナビゲート](#)
- [開始するには](#)

第4章 [ホーム]ページ

[ホーム]ページでは、サーバのシステム、サブシステム、およびステータスビューを提供します。[ホーム]ページは、システムのグループ化およびそのステータスについても表示します。[ホーム]ページの情報は、統合されたエージェントまたは管理ユーティリティにより提供されます。

HP-UXオペレーティングシステムの場合、[ホーム]ページには、統合されたWebベースエンタープライズ管理（WBEM）のプロパティページおよび管理ユーティリティから提供される情報が含まれます。

LinuxおよびWindowsオペレーティングシステムの場合、[ホーム]ページには、統合されたバージョンコントロール、サーバ、ストレージの各エージェントから提供される情報が含まれます。

[全体のステータス概要]

[全体のステータス概要]には、統合されたHP Webベースシステムマネジメントソフトウェアの提供する、クリティカル、メジャー、または警告ステータスのすべてのサブシステムへのリンクが表示されます。エージェントがインストールされていない場合、またはクリティカル、メジャー、マイナー、または警告ステータスのアイテムがない場合、[全体のステータス概要]には[アイテムなし]と表示されます。

[システム ステータス]

[システム ステータス]は、下にラベルのついたステータスアイコンを表示します。特定のwebappが、システムステータスを示す定義済みの経験則を使用して、[システム ステータス]アイコンの値を設定します。webappを使用するように設定されていない場合は、[システム ステータス]は、[全体のステータス概要]ボックスに報告された最も悪いステータスを表示します。

デフォルトのHP-UXプロパティ ページ

特定のWBEMプロパティページが、HP-UX用のHP SMHのインストールの一部として提供されます。どのページが提供されるかは、HP-UXオペレーティングシステムとともに提供されるその他のWBEMプロバイダ、たとえばWBEMServices（WBEM Services for HP-UX）とSFM-CORE（HP-UX System Fault Management）によって異なります。

[System]

[System]カテゴリでは、システムハードウェアのWBEM情報を提供します。最初のリンクの[System Summary]には、システムID情報と稼働ステータスが含まれます。HP SIMを使用している場合、この稼働ステータスは、HP-UXシステムについてのHP Systems Insight Manager（HP SIM）のHS列にも表示されます。概要の他に、リンクがメモリやプロセッサなどのサブシステムに関するステータスやその他の情報を表示します。

[Operating System]

[Operating System]カテゴリには、基本オペレーティングシステムの構成、利用状況、ステータス、およびその他の情報を表示するためのリンクが含まれます。

[Network]

[Network]カテゴリには、基本ネットワークシステムの構成、利用状況、ステータス、およびその他の情報を表示するためのリンクが含まれます。

[Software]

[System Software]カテゴリには、Software Distributorバンドルおよび製品（パッチ製品を含む）に関する情報を表示するためのリンクが含まれます。



注記: このカテゴリは、Linux Itaniumでは利用できません。

[Storage]

[Storage]カテゴリには、基本ストレージシステムの構成、利用状況、ステータス、およびその他の情報を表示するためのリンクが含まれます。

関連項目

- 開始するには
- [ホーム]ページ
- [設定]ページ
- [タスク]ページ
- [ツール]ページ（HP-UXのみ）
- [ログ]ページ
- [Webアプリケーション]ページ
- [サポート]ページ
- [ヘルプ]ページ

第5章 [設定]ページ

設定（[設定]）ページには、*HP System Management Homepage*（HP SMH）とツール（[ツール]）ページに表示されているその他の統合管理ツールの設定ページと構成ページへのリンクがあります。

表 5-1 設定ページ リンク

名前	説明	アクセス
SNMP Webagentボックス	HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアエージェントを設定するためのリンクを提供します。 <ul style="list-style-type: none">• 「SMHデータ ソース管理」 HP SMHデータ ソース用のオプションを設定します。• 「SNMPの設定」 HP Webベース システム マネジメント ソフトウェア エージェント用のオプションを設定します。• 「UIオプション」 HP Webベース システム マネジメント ソフトウェア エージェント ヘルプ用のオプションを設定します。	メニューから[設定]を選択します。
HP SMHデータ ソース カテゴリ	HP SMHマネジメント データ ソースを変更できます。詳しくは、「 SMHデータ ソース管理 」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[SMHデータ ソースの選択]ボックスの[選択]リンクをクリックします。
SNMPの設定カテゴリ	Webサービスを提供し、webapps用のセキュリティおよびHP Systems Insight Manager（HP SIM）の対話を抽象化します。詳しくは、「 SNMPの設定 」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[SMHデータ ソースの選択]ボックスの[SNMP設定]リンクをクリックします。
UIオプション カテゴリ	インライン ヘルプ アイコンを表示したり非表示にしたりすることができます。詳しくは、「 UIオプション 」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[SMHデータ ソースの選択]ボックスの[UIオプション]リンクをクリックします。
System Management Homepageボックス	HP SMHを設定するためのリンクを提供します。以下のリンクがあります。 <ul style="list-style-type: none">• 「UIプロパティ」 HP SMHの外観のオプションを設定します。• 「ユーザ初期設定」 HP SMHの表示方法を設定します。• 「セキュリティ」 セキュリティ オプションのリンクが表示されます。	メニューから[設定]を選択します。
メニューカテゴリ（HP-UXのみ）	HP SMHの任意のページおよびカテゴリに対し、カスタム メニューを追加および削除するためのリンクを提供します。これらのメニューを使用すると、コマンドの実行、Xアプリケーションの起動、または別のWebページまたはWebサイトを起動することができます。「 メニュー（HP-UXのみ） 」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[メニュー]リンクをクリックします。[メニュー]は、HP-UXシステムのみで使用可能です。
UIプロパティ カテゴリ	HP SMHの外観のオプションを設定します。リストおよびアイコンビューを選択するコントロール、会社に関するカスタム テキストおよび画像を使用するかどうかのコントロール、ボックスおよび項目順タイプの名前順またはステータス順のコントロールがあります。ユーザが特定のオプションをユーザ初期設定で設定してある場合でないかぎり、すべてのユーザに対してデフォルトのオプションとして機能します。詳しくは、「 UIプロパティ 」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[UIプロパティ]リンクをクリックします。

名前	説明	アクセス
ユーザ設定カテゴリ	HP SMHの表示方法を設定できます。リストおよびアイコンビューを選択するコントロール、セッションが期限切れしないためのコントロール（HP-UXのみ）、ボックスおよび項目順タイプの名前順またはステータス順のコントロールがあります。これらの設定は、設定するユーザに対して有効です。これらの値は、30日間保管されます。詳しくは、「ユーザ初期設定」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[UIプロパティ]リンクをクリックします。
セキュリティ	HP SMHを設定するためのリンクを提供します。以下のリンクがあります。 <ul style="list-style-type: none"> • [匿名/ローカル アクセス] • [IP バインド] • [IP限定ログイン] • [ローカル サーバ証明書] • [ポート 2301] • [タイムアウト] • [信頼 モード] • [信頼済みマネジメント サーバ] • [Kerberos認証] • [ユーザ グループ] 	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。

表 5-2 セキュリティ オプション

名前	説明	アクセス
「[匿名/ローカル アクセス]」	管理者が、匿名ユーザがSMHページにアクセスできるようにするオプションや、管理者または匿名ユーザとしてローカルコンソールで実行中にSMHへの自動ログインができるようにするオプションを設定できます。詳しくは、「[匿名/ローカル アクセス]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[匿名/ローカル アクセス]リンクをクリックします。
「[IP バインド]」	SMHがバインドされているアドレスを制御することができます。詳しくは、「[IP バインド]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[IPバインド]をクリックします。
「[IP限定ログイン]」	SMHにアクセス可能またはブロックされるアドレスを追加することができます。詳しくは、「[IP限定ログイン]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[IP限定ログイン]をクリックします。
「[ローカル サーバ証明書]」	このカテゴリには、2つのブロックがあり、署名して受信した署名済み証明書を後でインポートするために認証機関（CA）に送ることのできる証明書要求を生成するために使用されます。詳しくは、「[ローカル サーバ証明書]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[ローカル サーバ証明書]リンクをクリックします。
「ポート 2301」	ポート 2301へのアクセスを設定できます。詳しくは、「ポート 2301」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[ポート 2301]リンクをクリックします。
「タイムアウト」	SMHのタイムアウトの値を設定します。2つのタイムアウトを設定できます。それは、セッションタイムアウトとUIタイムアウトです。詳しくは、「タイムアウト」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[Timeouts]リンクをクリックします。
「[信頼モード]」	SMHの使用する信頼モードを設定します。3つの信頼モードを設定できます。それらは、証明書による信頼、名前による信頼、すべて信頼です。詳しくは、「[信頼モード]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[信頼モード]リンクをクリックします。

名前	説明	アクセス
「[信頼済みマネジメント サーバ]」	サーバに格納された証明書を設定し、証明書を追加または削除することができます。詳しくは、「[信頼済みマネジメントサーバ]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[信頼済みマネジメント サーバ]リンクをクリックします。
「Kerberos権限手順」	管理者ユーザがHP SMHへのKerberos認証済みアクセスを持つユーザと各アクセスレベルを設定できます。詳しくは、「Kerberos権限手順」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスのKerberos[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、Kerberos[認証]リンクをクリックします。
「[ユーザ グループ]」	管理者ユーザがHP SMHへのアクセス権を持つユーザのグループと各アクセスレベルを設定できます。詳しくは、「[ユーザ グループ]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[ユーザ グループ]リンクをクリックします。

関連項目

- [ホーム]ページ
- [タスク]ページ
- [ツール]ページ（HP-UXのみ）
- [ログ]ページ
- [Webアプリケーション]ページ

メニュー（HP-UXのみ）

[Menu]カテゴリは、カスタム メニューの追加とカスタム メニューの削除へのリンクを提供します。

- [設定]→[Menus]→[Add Custom Menu]の順に選択します。
- [設定]→[Menus]→[Remove Custom Menu]の順に選択します。

関連手順

- [Add Custom Menu]（HP-UXのみ）
- [Remove Custom Menu]（HP-UXのみ）

関連項目

- ▲ [設定]ページ

[Add Custom Menu]（HP-UXのみ）

HP SMHにカスタム メニューを追加するには以下の手順に従います（HP-UXのみ）。

1. [設定]→[Menus]→[Add Custom Menu]の順に選択します。
2. [Type]で、メニューを、コマンドの実行、Xアプリケーションの起動、別のWebサイトまたはWebアプリケーションへのリンクのいずれのタイプにするかを指定します。
3. [Page]で、このメニューを追加するHP SMHページを指定します。
たとえば、[ホーム]、[タスク]、[設定]、[ツール]、または[ログ]を指定することができます。
4. [Category]で、メニューを配置するカテゴリ（ボックス）を指定します。
既存のカテゴリの名前を入力するか、新しいカテゴリを入力して作成することができます。
5. [Tool Name]に、指定したページとカテゴリの下に表示させたいメニューの名前を指定します。

6. **[Command/URL]**に、コマンドやXアプリケーションへのコマンドライン、またはリンクのターゲット先となるWebページのURLを入力します。
7. **[Run as root]**については、右にあるチェックボックスを選択して、コマンドがrootユーザとして実行することを指定します。

チェック ボックスをオンにすると、管理者権限を持つHP SMHユーザのみがこのメニューの実行を許可されます。

メニューの作成と「rootユーザとして実行」が設定されたカスタム メニューを実行できるのは、管理者権限を持つHP SMHユーザだけです。オペレータ権限またはユーザ権限を持つHP SMHユーザは、実行を許可されたカスタム メニューをユーザ ログインのユーザIDで実行することができます。

これらのカスタムメニューは、/opt/hpsmh/data/htdocs/xlaunch/custom-menus.jsファイルに保存され、管理されます。このファイルはシステム間で手動でコピーすることができます。

関連項目

- [\[設定\]ページ](#)
- [メニュー（HP-UXのみ）](#)
- [\[Remove Custom Menu\]（HP-UXのみ）](#)

[Remove Custom Menu]（HP-UXのみ）

[Remove a Custom Menu]にアクセスするには、**[設定]→[Menus]→[Remove Custom Menu]**の順に選択します。

関連項目

- [\[設定\]ページ](#)
- [メニュー（HP-UXのみ）](#)
- [\[Add Custom Menu\]（HP-UXのみ）](#)

SMHデータ ソース管理

[データ ソース]ページでは、HP SMH管理データ ソースを変更できます。

[データ ソース]設定は、HP Insight Management WBEM Providerがインストールされている場合にのみ使用可能です。



注記: ソースがインストールされていない場合は、SMHデータ ソースがデータ スtringなしで表示されます。

- **SMHデータ ソース：WBEM** HP Insight Management WBEM Providerが、現在、マネジメント データをこのサーバのSMHページに提供していることを示します。
- **SMHデータ ソース：SNMP** HP Insightマネジメント エージェント（SNMP）が、現在、マネジメント データをこのサーバのSMHページに提供していることを示します。

データ ソースを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[SMHデータ ソースの選択]**ボックスで、**[選択]**リンクをクリックします。
3. **[SNMP]**または**[WBEM]**を選択します。
4. **[選択]**をクリックします。

関連項目

- ▲ [\[設定\]ページ](#)

SNMPの設定

[SNMP設定]ページは、Webサービスを提供し、webapps用のセキュリティおよびHP SIMの対話を抽象化します。詳しくは、HP Technical Documentation Webサイト<http://docs.hp.com>に掲載されている、*HP Systems Insight Manager 5.2*テクニカル リファレンス ガイドを参照してください。

SNMP設定を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[SMHデータ ソースの選択]**ボックスで、**[SNMP設定]**リンクをクリックします。

関連項目

- ▲ [\[設定\]ページ](#)

UIオプション

[UIオプション]ページにより、インライン ヘルプ アイコンを表示できます。

UIオプションを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[SMHデータ ソースの選択]**ボックスで、**[UIオプション]**リンクをクリックします。
3. **[SNMP設定]**の横のチェックボックスのチェックを外し、インライン ヘルプ アイコンを非表示します。

[SNMP設定]の横のチェックボックスを選択し、インライン ヘルプ アイコンを表示します。

4. **[変更の保存と適用]**をクリックします。

関連項目

- ▲ [\[設定\]ページ](#)

UIプロパティ

[User Properties]カテゴリは、HP SMHの外観のオプションを制御します。**UIプロパティ**には、次を選択するコントロールがあります。

- リスト ビュー
- アイコン ビュー
- ボックスおよび項目順タイプ
 - 名前順
 - ステータス順
- 最後のオプションは、管理者によって使用され、マスタヘッダおよび**[サイン イン]ページ**用のカスタム イメージ、および**[サイン イン]ページ**用のカスタム警告テキストが設定されます。

表 5-3 UIプロパティ オプション

オプション	説明
[プレゼンテーション モード]	リストから選択してデフォルトの表示モードを設定できます。 [プレゼンテーション モード] には、2つのオプションがあります。 [リスト表示] と [アイコン表示] です。
ボックス順	ボックスが表示される順を指定します。名前順にすると、項目はアルファベット順に表示されます。ステータス順にすると、悪いほう（クリティカル）から良いほう（正常）の順に表示されます。

オプション	説明
ボックス項目順	ボックス内の項目が表示される順を指定します。名前順にすると、項目はアルファベット順に表示されます。ステータス順にすると、悪いほう（クリティカル）から良いほう（正常）の順に表示されます。
カスタム テキストおよびイメージの使用	管理者が、[サイン イン]ページのカスタム警告メッセージおよび[サインイン]ページの画像およびマスタ ヘッダを設定できるようにします。

UIプロパティを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから[設定]を選択します。
2. [System Management Homepage]ボックスで、[UIプロパティ]リンクをクリックします。
3. [プレゼンテーション モード]リストから、[リスト]または[アイコン]を選択します。
4. [ボックス オーダー]リストから、[ステータス]または[名前]を選択します。
5. [ボックス アイテム オーダー]ドロップダウン リストから、[ステータス]または[名前]のいずれかを選択します。
6. カスタム イメージおよびカスタム警告を使用するには、以下の手順に従ってください。
 - a. イメージ ファイルとテキスト ファイルは、それぞれ専用サブディレクトリに配置してください。
 - `SMHBaseDir/data/htdocs/custom_ui/logo0.jpg`（画面画像のロードのため）
 - `SMHBaseDir/data/htdocs/custom_ui/logo1.jpg`（マスタ ヘッダ画像のため）
 - `SMHBaseDir/data/htdocs/custom_ui/warning1.txt`（警告テキストのため）
 3つすべてのファイルは、カスタマ画像および警告テキストの表示のために必要です。
 - b. [カスタム テキストおよびイメージの使用]の横のチェックボックスをクリックします。
7. [適用]をクリックします。

関連手順

- ▲ ユーザ初期設定

関連項目

- ▲ [設定]ページ

ユーザ初期設定

[User Preferences]カテゴリは、HP SMHの外観のオプションを制御します。

- リスト ビュー
- アイコン ビュー
- ボックスおよび項目順タイプ
 - 名前順
 - ステータス順

表 5-4 ユーザ設定オプション

オプション	説明
[プレゼンテーション モード]	リストから選択してデフォルトの表示モードを設定できます。 [プレゼンテーション モード]には、2つのオプションがあります。 [リスト表示]と[アイコン表示]です。
ボックス順	ボックスが表示される順を指定します。名前順にすると、項目はアルファベット順に表示されます。ステータス順にすると、悪いほう（クリティカル）から良いほう（正常）の順に表示されます。

オプション	説明
ボックス項目順	ボックス内の項目が表示される順を指定します。名前順にすると、項目はアルファベット順に表示されます。ステータス順にすると、悪いほう（クリティカル）から良いほう（正常）の順に表示されます。
[Session Never Expires]	3分ごとにバックグラウンドでリクエストを送信することで、HP SMHセッションがタイムアウトするのを防ぐことができます。このオプションを選択すると、HP SMHサービスがタイムアウトすることも防ぐことができます。 注記: HP SMHサービス タイムアウトは、HP-UXシステムのみで使用可能です。

ユーザ設定を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[ユーザ初期設定]**リンクをクリックします。
3. **[プレゼンテーション モード]**リストから、**[リスト]**または**[アイコン]**を選択します。
4. **[ボックス オーダー]**リストから、**[ステータス]**または**[名前]**を選択します。
5. **[ボックス アイテム オーダー]**リストから、**[ステータス]**または**[名前]**を選択します。
6. セッションの期限切れをさせない場合は、**[Session Never Expires]**の横のチェックボックスをクリックします。



注記: HP SMHサービス タイムアウトは、HP-UXシステムのみで使用可能です。

7. **[適用]**をクリックします。



注記: 各ユーザは、セッション中の外観を設定することができます。個別のユーザ設定は、UIプロパティ内の設定に優先します。

関連手順

- ▲ UIプロパティ

関連項目

- ▲ **[設定]**ページ

セキュリティ

[セキュリティ]リンクでは、HP SMH自身のセキュリティを管理するためのオプションを提供します。

表 5-5 セキュリティ オプション

名前	説明	アクセス
「[匿名/ローカル アクセス]」	管理者が、匿名ユーザがSMHページにアクセスできるようにするオプションや、管理者または匿名ユーザとしてローカルコンソールで実行中にSMHへの自動ログインができるようにするオプションを設定できます。詳しくは、「[匿名/ローカル アクセス]」を参照してください。	メニューから [設定] を選択し、 [System Management Homepage] ボックスの [セキュリティ] リンクをクリックします。さらに、 [匿名/ローカル アクセス] リンクをクリックします。
「[IP バインド]」	SMHがバインドされているアドレスを制御することができます。詳しくは、「[IP バインド]」を参照してください。	メニューから [設定] を選択し、 [System Management Homepage] ボックスの [セキュリティ] リンクをクリックします。さらに、 [IPバインド] をクリックします。
「[IP限定ログイン]」	SMHにアクセス可能またはブロックされるアドレスを追加することができます。詳しくは、「[IP限定ログイン]」を参照してください。	メニューから [設定] を選択し、 [System Management Homepage] ボックスの [セキュリティ] リンクをクリックします。さらに、 [IP限定ログイン] をクリックします。

名前	説明	アクセス
「[ローカル サーバ証明書]」	このカテゴリには、2つのブロックがあり、署名して受信した署名済み証明書を後でインポートするために認証機関（CA）に送ることのできる証明書要求を生成するために使用されます。詳しくは、「[ローカル サーバ証明書]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[ローカル サーバ証明書]リンクをクリックします。
「ポート 2301」	ポート 2301へのアクセスを設定できます。詳しくは、「ポート 2301」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[ポート 2301]リンクをクリックします。
「タイムアウト」	SMHのタイムアウトの値を設定します。2つのタイムアウトを設定できます。それは、セッションタイムアウトとUIタイムアウトです。詳しくは、「タイムアウト」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[Timeouts]リンクをクリックします。
「[信頼モード]」	SMHの使用する信頼モードを設定します。3つの信頼モードを設定できます。それらは、証明書による信頼、名前による信頼、すべて信頼です。詳しくは、「[信頼モード]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[信頼モード]リンクをクリックします。
「[信頼済みマネジメント サーバ]」	サーバに格納された証明書を設定し、証明書を追加または削除することができます。詳しくは、「[信頼済みマネジメント サーバ]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[信頼済みマネジメント サーバ]リンクをクリックします。
「Kerberos権限手順」	管理者ユーザがHP SMHへのKerberos認証済みアクセスを持つユーザと各アクセスレベルを設定できます。詳しくは、「Kerberos権限手順」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスのKerberos[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、Kerberos[認証]リンクをクリックします。
「[ユーザ グループ]」	管理者ユーザがHP SMHへのアクセス権を持つユーザのグループと各アクセスレベルを設定できます。詳しくは、「[ユーザ グループ]」を参照してください。	メニューから[設定]を選択し、[System Management Homepage]ボックスの[セキュリティ]リンクをクリックします。さらに、[ユーザ グループ]リンクをクリックします。

関連項目

- [設定]ページ
- コマンド ライン インタフェース設定

[匿名/ローカル アクセス]

[Anonymous/Local]アクセスにより、次の設定を選択できます。

- **匿名アクセス** （デフォルトは無効）。[匿名アクセス]を有効にすると、ユーザはログインせずにHP SMHにアクセスできます。[匿名]を選択すると、任意のローカルまたはリモートユーザが、ユーザ名およびパスワードの入力を求められることなく、セキュリティ保護されていないページにアクセス権を持ちます。

警告： [匿名アクセス]を使用することはお勧めできません。

- **ローカル アクセス** （デフォルトは無効）。[ローカル アクセス]を有効にすると、認証を受けずにローカルでHP SMHにアクセスできます。つまり、ローカル コンソールにアクセスできる任意のユーザが、[管理者]を選択することにより、フル アクセス権を獲得できます。

警告： [ローカル アクセス]は、ユーザの管理サーバソフトウェアがこのアクセスを有効にしていない限り、使用することはお勧めできません。

匿名アクセスを有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから[設定]を選択します。
2. [System Management Homepage]ボックスで、[セキュリティ]リンクをクリックします。
3. [匿名/ローカル アクセス]リンクをクリックします。

4. **[匿名アクセス]**の下で、**[保証されていないページへの匿名のユーザ アクセスを許可します]**の横のボックスを選択します。
5. **[適用]**をクリックして設定を適用します。

匿名アクセスを無効にするには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[匿名/ローカル アクセス]**リンクをクリックします。
4. **[匿名アクセス]**の下で、**[保証されていないページへの匿名のユーザ アクセスを許可します]**の横のボックスからチェックを外します。
5. **[適用]**をクリックして設定を適用します。

ローカル アクセスを有効にするには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[匿名/ローカル アクセス]**リンクをクリックします。
4. **[ローカル アクセス]**の下で、**[保証System Management Homepageの自動ログインを有効にします]**の横のボックスを選択します。
5. **[匿名]**または**[管理者]**を選択します。
6. **[適用]**をクリックして設定を適用します。

ローカル アクセスを無効にするには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[匿名/ローカル アクセス]**リンクをクリックします。
4. **[ローカル アクセス]**の下で、**[保証System Management Homepageの自動ログインを有効にします]**の横のボックスを選択解除します。
5. **[適用]**をクリックして設定を適用します。

関連手順

- **[IP バインド]**
- **[IP限定ログイン]**
- **[ローカル サーバ証明書]**
- **別名証明書**
- **ポート 2301**
- **タイムアウト**
- **[信頼モード]**
- **[信頼済みマネジメント サーバ]**
- **Kerberos権限手順**
- **[ユーザ グループ]**

関連項目

- ▲ **[設定]ページ**

[IP バインド]

IPバインディングは、HP SMHが要求を受け入れる**IPアドレス**を指定し、処理されるネットおよびサブネット要求についての制御を行います。

管理者は、**[IPバインド]**ウィンドウで指定されたアドレスだけにバインドするようにHP SMHを設定することができます。5つのサブネットIPアドレスとネットマスクを定義することができます。

サーバのIPアドレスは、マスクの適用後に入力されたIPバインディング アドレスのいずれかに一致する場合に、バインドされます。

HP SMHは、IPv4およびIPv6アドレスをサポートします。



注記: HP SMHは、常に、127.0.0.1にバインドされます。IPバインドが有効になっていて、サブネット/マスク ペアが設定されていない場合、HP SMHは、127.0.0.1に対してのみ利用可能です。IPバインディングが有効でない場合は、すべてのアドレスにバインドします。

IPバインディングを設定するには、次のように操作します。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[IPバインド]**リンクをクリックします。
4. **サブネットIPアドレス**を入力します。
IPv4またはIPv6アドレスを入力することができます。
5. **ネットマスク**を入力します。
6. **[追加]**をクリックして、前の手順で入力した**[サブネットIPアドレス]**および**[ネットマスク]**を追加します。
手順4〜7を繰り返して、最大5つのサブネットIPアドレスおよびネットマスクを追加することができます。
7. **[追加]**をクリックし、設定を適用します。



注記: ネットマスクは、IPv4アドレスにのみ適用可能です。

IPアドレスをリストから削除するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[IPバインド]**リンクをクリックします。
4. 削除するIPアドレスの横のチェックボックスを選択します。
5. **[削除]**をクリックします。
6. **[追加]**をクリックし、設定を適用します。

各IPアドレスおよびネットマスクは、0〜255の値を持つ4つのオクテットで構成されている必要があります（各ネットマスクについても同じです）。

ネットマスクは、最上位ビットが1で始まっており、途中まで1が続き、そこから最後までは0が続くという構成（255.255.0.0、192.0.0.0、255.192.0.0など）になっている必要があります。

関連手順

- **[匿名/ローカル アクセス]**
- **[IP限定ログイン]**
- **[ローカル サーバ証明書]**
- **別名証明書**
- **ポート2301**
- **タイムアウト**
- **[信頼モード]**
- **[信頼済みマネジメント サーバ]**
- **Kerberos権限手順**
- **[ユーザ グループ]**

関連項目

▲ [設定]ページ

[IP限定ログイン]

[IP限定ログイン]により、HP SMHは、サインインを試行するシステムのIPアドレスに基づいてログインアクセスを制限できます。

LinuxおよびWindowsでは、インストール時にアドレス制限を設定できます。すべてのオペレーティングシステムでは、管理者が[IP限定ログイン]ページからアドレス制限を設定することができます。以下に注意してください。

- IPアドレスが制限されている場合は、許可ボックスにあっても制限されます。
- IPアドレスが許可リストにある場合は、それらのIPアドレスのみサインインできます。ただし、*localhost*はそのかぎりではありません。
- IPアドレスが許可リストにない場合、サインイン アクセスは、制限リストにないあらゆるIPアドレスに対して許可されます。

HP SMHは、IPv4およびIPv6アドレスをサポートします。

IPアドレスを制限するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[IP限定ログイン]**リンクをクリックします。
4. **IPアドレス**または**IPアドレス範囲**を入力します。

IPアドレス範囲は、必ず、範囲の下限、ハイフン、範囲の上限の順に入力してください。上限と下限の値も範囲に含まれます。

IPアドレス範囲と単独のIPアドレスは、セミコロンで区切ります。IPアドレス範囲は、次のフォーマットで入力してください。192.168.0.1-192.168.0.255;

IPv4またはIPv6アドレスを入力することができます。

5. **[制限]**または**[許可]**ラジオ ボタンを選択します。
6. **[追加]**をクリックし、設定を追加します。
7. **[適用]**をクリックし、設定を適用します。

IPアドレスをリストから削除するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[IP限定ログイン]**リンクをクリックします。
4. 削除するIPアドレスの横のチェックボックスを選択します。
5. **[削除]**をクリックします。
6. **[適用]**をクリックし、設定を適用します。

関連手順

- [匿名/ローカル アクセス]
- [IP バインド]
- [ローカル サーバ証明書]
- 別名証明書
- ポート2301
- タイムアウト
- [信頼モード]
- [信頼済みマネジメント サーバ]
- Kerberos権限手順
- [ユーザ グループ]

関連項目

▲ [設定]ページ

[ローカル サーバ証明書]

[ローカル サーバ証明書]リンクにより、HPが作成した以外の**証明書**を使用できます。

このプロセスを使用すると、HP SMHで作成された**自己署名の証明書**が、**認証機関**（CA）が発行した証明書に置き換えられます。

- このプロセスの最初の手順は、HP SMHに**証明書リクエスト（PKCS #10）**を作成させることです。このリクエストは、自己署名の証明書に関連したオリジナルのプライベートキーを利用して、証明書リクエストのためのデータを生成します。このプロセス中、プライベートキーがサーバからなくなることはありません。
- パブリックキーインフラストラクチャ**PKCS #10**データが作成されたら、次の手順はこのデータを認証機関に送ることです。セキュアなリクエストの送信およびセキュアな証明書の受信については企業の規定に従ってください。
- 認証機関が**PKCS #7**データを返したら、最後の手順はこのデータをHP SMHにインポートすることです。
- PKCS #7**データがインポートされたら、オリジナルの\hp\sslshare\cert.pem証明書ファイル（Windows）、/opt/hpsmh/sslshare/cert.pemファイル（HP-UX）、または/opt/hp/sslshare/cert.pem（Linux x86およびx86-64上のHP SMH 2.1.3以降の場合）、/etc/opt/hp/sslshare/cert.pem）は、**PKCS #7**データエンベロープからのシステムの証明書で上書きされます。新しくインポートされた証明書にも、以前の自己署名の証明書と同じプライベートキーが使用されます。このプライベートキーは、キーファイルが存在しない場合、起動時にランダムに生成されます。

証明書を作成するには、以下の手順に従ってください。

- メニューから**[設定]**を選択します。
- [System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
- [ローカル サーバ証明書]**リンクをクリックします。
- [PKCS #10データの作成]**ボックスの**[組織]**または**[組織ユニット]**フィールドのデフォルト値を、64文字以下の値に置き換えます。

指定しない場合は、*Hewlett-Packard Company*が**[組織]**に、*Hewlett-Packard Network Management Software (SMH)*が**[組織ユニット]**に入力されます。

- [PKCS #10データの作成]**ボックスの**[作成]**をクリックします。

PKCS #10証明書リクエストデータが作成され、/opt/hpsmh/sslshare/req_cr.pem（HP-UX）、/etc/opt/hp/sslshare/req_cr.pem（Linux x86およびx64）、またはsystemdrive: \hp\sslshare\req_cr.pem（Windows）に保存されたことを示す画面が表示されます。

- 証明書データをコピーします。
- PKCS #10**証明書リクエストデータを認証機関にセキュアな方法を使用して送り、証明書リクエスト返信データを**PKCS #7**フォーマットで送ってもらうように依頼します。さらに、返信データをBase64コード化フォーマットで送ってもらうように依頼します。

所属する組織に独自のパブリックキーインフラストラクチャ（PKI）/Certificateサーバが設置されている場合は、**PKCS #10**データをCAのマネージャに送り、**PKCS #7**返信データを要求します。



注記: サードパーティ証明書承認局からは、通常、料金が課せられます。

- 証明書承認局から**PKCS #7**コード化証明書リクエスト返信データが送られてきたら、**PKCS #7**証明書リクエスト返信からこのデータコピーして、**[PKCS #7データのインポート]**ボックスの**[PKCS #7情報]**フィールドに貼り付けます。
- [インポート]**をクリックします。
カスタム作成証明書がインポートされたかどうかを示すメッセージが表示されます。
- HP SMHを再起動します。

11. インポートされた証明書を含む管理対象システムをブラウズします。
12. ブラウザから求められたら、証明書の表示を選択し、ブラウザに証明書をインポートする前に、使用する署名者が署名者のリストに表示されていて、HPが署名者として表示されていないことを確認します。

選択した証明書署名者が、証明書ファイルを**PKCS #7**データではなく、Base64コード化フォーマットで送付してきた場合は、Base64コード化ファイルをファイル名/opt/hpsmh/sslshare/cert.pem (HP-UX)、/etc/opt/hp/sslshare/cert.pem (Linux x86およびx64)、またはsystemdrive:\hp\sslshare\cert.pem (Windows) にコピーして、HP SMHを再起動してください。

関連手順

- [匿名/ローカル アクセス]
- [IP バインド]
- [IP限定ログイン]
- 別名証明書
- ポート2301
- タイムアウト
- [信頼モード]
- [信頼済みマネジメント サーバ]
- Kerberos権限手順
- [ユーザ グループ]

関連項目

- ▲ [設定]ページ

別名証明書

HP SMHでは、HPが作成した以外の**証明書**をマルチホームまたは複数の名前に設定できます。この機能により、SMHの証明書は利用可能なネットワークの別名やIPなどのマシンの詳細情報を含めることができます。同じようにして、**認証機関 (CA)**で承認された要求を作成することができます。

別名として、2種類の値が可能です。

- DNS名 (Linux、Linux.localdomainなど)
- IPアドレス (10.16.165.1;192.168.1.189など)

Administratorユーザ グループ内のユーザおよびシステム管理者 (Linuxではroot、WindowsではAdministrator) のみがブラウザから**[代理名]**フィールドを編集することができます。

マルチホーム の設定は、以下の手順に従ってください。

ここでの**代理名**に対する変更は、現在の証明書にのみ影響を与えます。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[ローカル サーバ証明書]**リンクをクリックします。
4. **[現在の証明書]**ボックスで、**[代理名]**フィールドに値を入力します。
5. **[作成]**をクリックします。
6. **[はい]**をクリックします。前の画面が現れ、次のメッセージが表示されます。Success: Value successfully changed.

この場合、新しい認証情報と別名のセットがブラウザでネゴシエートされます。

関連手順

- [匿名/ローカル アクセス]
- [IP バインド]

- [IP限定ログイン]
- [ローカル サーバ証明書]
- ポート2301
- タイムアウト
- [信頼モード]
- [信頼済みマネジメント サーバ]
- Kerberos権限手順
- [ユーザ グループ]

関連項目

- ▲ [設定]ページ

ポート2301

[**ポート2301**]リンクは、**ポート2301**を有効にしたり無効にしたりすることができます。デフォルト値は有効で、*HP Webベース システム マネジメント ソフトウェア*との互換性を維持しています。

ポート2301を有効または無効にするには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから[**設定**]を選択します。
2. [**System Management Homepage**]ボックスで、[**セキュリティ**]リンクをクリックします。
3. [**ポート2301**]リンクをクリックします。
4. [**設定ボックス**]で、[**ポート2301を有効**]をチェックをオンにし、ポート2301を有効にするか、チェックを削除してポート2301を**無効**にします。
5. [**適用**]をクリックします。

関連手順

- [匿名/ローカル アクセス]
- [IP バインド]
- [IP限定ログイン]
- [ローカル サーバ証明書]
- 別名証明書
- タイムアウト
- [信頼モード]
- [信頼済みマネジメント サーバ]
- Kerberos権限手順
- [ユーザ グループ]

関連項目

- ▲ [設定]ページ

タイムアウト

[**タイムアウト**]リンクは、[**セッション タイムアウト**]および[**UIタイムアウト**]の値を設定するオプションを提供します。

- [**セッション タイムアウト**]値は、SMHセッションでユーザが非アクティブのままいることのできる分数を示します。ユーザがログインして、[**セッション タイムアウト**]に指定した時間よりも長く非アクティブのままいると、ユーザはユーザインタフェースの次のやり取りで、[**サインイン**]ページにリダイレクトされます。
- [**UIタイムアウト**]値は、SMHユーザ インタフェース（UI）がwebappsから要求されるデータを待機する秒数を示します。管理者アクセス権限のあるユーザは、[**セッション タイムアウト**]を1～60分

に設定することができます。デフォルト値は、15分です。管理者アクセス権限のあるユーザは、**[UI タイムアウト]**を10～3600秒に設定することができます。デフォルト値は、20秒です。

[ユーザ初期設定カテゴリ]で**[Session never expires]**チェックボックスを選択すると、3分ごとにバックグラウンドでリクエストを送信することで、HP SMHセッションがタイムアウトするのを防ぐことができます。このオプションを選択すると、HP SMHサービスがタイムアウトすることも防ぐことができます。詳しくは、「**ユーザ初期設定**」を参照してください。



注記: [session never expires]オプションは、HP-UXシステムのみで使用可能です。

次の表は、タイムアウトに使用可能な値の範囲をそれぞれの単位で示します。

表 5-6 タイムアウト設定

タイムアウト	範囲
[セッション タイムアウト]	1～60分
[UIタイムアウト]	10～3600秒

セッション タイムアウト

セッション タイムアウトの値を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[タイムアウト]**リンクをクリックします。
4. **[セッション タイムアウト (minutes)]**テキストボックスで、1～60分の値を入力します。
5. **[適用]**をクリックします。

UIタイムアウト

UIタイムアウトの値を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[タイムアウト]**リンクをクリックします。
4. **[UIタイムアウト (seconds)]**テキストボックスで、10～3600秒の値を入力します。
5. **[適用]**をクリックします。

関連手順

- **[匿名/ローカル アクセス]**
- **[IP バインド]**
- **[IP限定ログイン]**
- **[ローカル サーバ証明書]**
- **別名証明書**
- **ポート 2301**
- **[信頼モード]**
- **[信頼済みマネジメント サーバ]**
- **Kerberos権限手順**
- **[ユーザ グループ]**

関連項目

▲ [設定]ページ

[信頼モード]

[信頼モード]リンクは、ご使用のシステムに必要なセキュリティを選択することができます。他よりも高レベルのセキュリティが必要になる場合があります。したがって、以下のセキュリティオプションが与えられています。

- **証明書による信頼** 信頼済み**証明書**を持つHP SIMサーバからの設定変更だけを受け入れるようにHP SMHを設定できます。このモードでは、証明書による認証を提供する、提出されたサーバが必要です。このモードは最もセキュリティの高い方法になります。証明書のデータを必要とし、デジタル署名を確認してからアクセスを許可するからです。リモートでの設定変更を可能にしたいくない場合は、**[証明書による信頼]**を選択したままにし、さらにいずれの証明書もインポートしないようにして信頼システムのリストを空のままにしておきます。

これは、Linux Itaniumのデフォルトの動作です。

このオプションはより安全であるため、このオプションを使用することをおすすめします。

- **名前による信頼** **[名前による信頼]**フィールドで指定された名前のHP SIMサーバからの設定変更だけを受け入れるようにHP SMHを設定できます。たとえば、2つの部門に2つの管理者グループがある安全なネットワークの場合にこのオプションを使用できます。これにより、あるグループが間違えたシステムにソフトウェアをインストールすることを防止できます。このオプションは、指定したHP SIMサーバだけを確認します。

他のオプションより安全であるため、**証明書による信頼**オプションを使用することを強くおすすめします。

- **すべて信頼** システムからの特定の設定変更も受け入れるようにHP SMHを設定できます。[すべて信頼]モードを設定する状況の例としては、セキュリティ保護されたネットワーク上にあって、ネットワーク内の全員が信頼関係を結んでいる場合が挙げられます。

他のオプションより安全であるため、**証明書による信頼**オプションを使用することを強くおすすめします。

信頼モードの設定

HP-UX環境の場合、インポートされたHP SMH証明書は、/opt/hpsmh/certsディレクトリに保存されます。

Linux環境の場合、インポートされたHP SMH証明書は、/opt/hp/hpsmh/certsディレクトリに保存されます。

Windows環境の場合、インポートされたHP SIM証明書は、システムドライブ\hp\hpsmh\certsディレクトリに保存されます。

このディレクトリにアクセスするには管理者権限を持っている必要があります。

証明書によって信頼するには、次のように操作します。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[信頼モード]**リンクをクリックします。
4. **[セキュアな信頼モード]**ボックスで、**[証明書による信頼]**ラジオ ボタンをクリックします。
このオプションを選択すると、**信頼済み証明書**を使用してHP SIMが署名した**セキュリティ タスク実行およびシングル ログイン リクエスト**を受け入れるようにHP SMHを設定します。

5. **[適用]**をクリックします。

名前によって信頼するには、次のように操作します。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[信頼モード]**リンクをクリックします。
4. **[その他の信頼モード]**ボックスで、**[名前による信頼]**ラジオ ボタンをクリックします。

5. **[サーバ証明書]**テキストボックスに、サーバ証明書を名を入力します。
6. **[追加]**をクリックします。
[追加]をクリックすると、**サーバ証明書名**が次の条件を満たすかどうかを確認されます。
 - 各HP SIMサーバの証明書名は64文字未満でなければならない
 - 次の無効な文字が含まれていない：~'!@#\$%^&*()+=/'":'<>?,|
 - サーバ証明書名がリストに存在しない検証テストによって値が受け入れられると、**サーバ証明書名**がリスト テーブルの新しい行として追加されます。手順5〜6を行うことで、最大5つの**サーバ証明書名**を追加することができます。5つより多くの証明書名を入力すると、No more names can be addedというアラートが表示されます。
7. **[適用]**をクリックして設定を保存します。
このオプションを選択すると、一覧の名前のサーバにあるHP SIMからの**セキュリティ タスク実行**および **シングル ログイン リクエスト** のみを受け入れるようにHP SMHが設定されます。

サーバ証明書名をリストから削除するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
 2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
 3. **[信頼モード]**リンクをクリックします。
 4. **[その他の信頼モード]**ボックスで、削除する**サーバ証明書名**を確認し、その名前の横のチェックボックスをクリックします。
 5. **[削除]**をクリックします。
 6. **[適用]**をクリックします。
- すべてのサーバを信頼するには、次のように操作します。
1. メニューから**[設定]**を選択します。
 2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
 3. **[信頼モード]**リンクをクリックします。
 4. **[その他の信頼モード]**ボックスで、**[すべての信頼]**ボタンをクリックします。
 5. **[適用]**をクリックします。
- [すべての信頼]**オプションを選択すると、任意のHP SIMサーバからの**セキュア タスク実行**および**シングル サインオン**要求を受け入れるようにHP SMHが設定されます。

関連手順

- **[匿名/ローカル アクセス]**
- **[IP バインド]**
- **[IP限定ログイン]**
- **[ローカル サーバ証明書]**
- **別名証明書**
- **ポート 2301**
- **タイムアウト**
- **[信頼済みマネジメント サーバ]**
- **Kerberos権限手順**
- **[ユーザ グループ]**

関連項目

▲ [設定]ページ

[信頼済みマネジメント サーバ]

証明書は、HP SIMまたはInsightマネージャ7とHP SMHとの信頼関係を確立します。**[信頼済みマネジメント サーバ]**リンクにより、**信頼済み証明書リスト**内の**証明書**を管理できます。以下に注意してください。

- **[証明書データのインポート]** 証明書は、HP SIMとHP SMHの間の信頼関係を確立します。
- **[サーバから証明書の追加]** HP SIMサーバから信頼済み証明書を追加できます。

証明書を信頼済み証明書リストに追加するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[信頼済みマネジメント サーバ]**リンクをクリックします。
4. **[Add Certificate]**領域で、**[Import Certificate Data]**ラジオ ボタンをクリックします。
5. Base64コード化証明書をテキストボックスにコピーして貼り付けます。
6. **[インポート]**をクリックします。

サーバから証明書を追加するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[信頼済みマネジメント サーバ]**リンクをクリックします。
4. **[証明書情報の入手]**領域で、**[Add Certificate From Server]**ラジオボタンをクリックします。
5. **[サーバ名]**テキストボックスに、HP SIMサーバのIPアドレスまたはサーバ名を入力します。
6. **[追加]**をクリックします。

関連手順

- **[匿名/ローカル アクセス]**
- **[IP バインド]**
- **[IP限定ログイン]**
- **[ローカル サーバ証明書]**
- **別名証明書**
- **ポート2301**
- **タイムアウト**
- **[信頼モード]**
- **Kerberos権限手順**
- **[ユーザ グループ]**

関連項目

▲ [設定]ページ

Kerberos権限手順

ユーザが**Kerberos**領域でのサービスを認証する場合は、一連の手順を行って認証を実行する必要があります。クライアント（ユーザのマシン）は、Kerberosサーバから証明書を入手する必要があります。サーバは、*Authentication Server (AS)* および*Ticket Granting Server (TGS)* です。

ASおよびTGSは、同じマシン上に存在し、*Key Distribution Center (KDC)* といわれます。

Kerberos領域でユーザが安全なサービスにアクセスするプロセスの概要は、次のとおりです。

このプロセスは、初期状態でユーザが**Kerberos**領域にログインしてKerberosで保護されたサービスに最初にアクセスをしようとするときにのみ発生します。

1. ユーザは、ドメインのユーザ名およびパスワードを使用してシステム（クライアント）にログインします。
2. ユーザのパスワードはハッシュされ、このハッシュがユーザの秘密鍵になります。
3. ユーザがサービスへのアクセスを試みると、メッセージが、ユーザがそのサービスにアクセスしようとしていることをASに伝えます。
4. ユーザがASデータベース内にある場合は、クライアントに2つのメッセージが返されます。
 - a. クライアント/TGSセッション キーはユーザの秘密鍵によって暗号化され、TGSとの通信で使用されます。
 - b. Ticket-Granting Ticket (TGT) は、TGSの秘密鍵によって暗号化されます。**チケット**は、個人識別のために**Kerberos**で使用されます。TGTによって、クライアントは、ネットワーク サービスと通信するためのその他のチケットを入手できます。
5. これらの2つのメッセージを受信したら、クライアントは、クライアント/TGSセッション キーの含まれるメッセージを復号します。

次のプロセスは、ユーザがサービスを認証しようとするたびに発生します。

1. ユーザがサービスを要求すると、クライアントはTGSに次の2つのメッセージを送信します。
 - TGTおよび要求されたサービスからなるメッセージ
 - 認証符号。受信済みのクライアント/TGSセッション キーによって暗号化されたクライアントのIDと現在のタイムスタンプから構成されます。

タイムスタンプは、**Kerberos**で、複製攻撃を回避するために使用されます。マシン間のクロック スキューは、特定の限度を超えることができません。
2. TGSは認証符号を復号し、クライアントに次の2つのメッセージを返します。
 - TGSから受信したクライアント-サーバ チケット
 - 別の認証符号。クライアント/サーバセッション キーによって暗号化されたクライアントのIDと現在のタイムスタンプから構成されます。
3. サービスは、クライアント-サーバチケットをそれ自体の秘密鍵によって復号し、識別のために、受信したタイムスタンプに1を足したタイムスタンプで、メッセージをクライアントに送信します。このメッセージは、クライアント/サーバセッション キーで暗号化されます。
4. クライアントは、メッセージを復号し、タイムスタンプを確認します。正しければ、サービスに要求を発行することができ、想定どおりに応答が返されます。

HP SMH Kerberos認証

HP SMHは、**Kerberos シングル サインオン (SSO)**を提供します。これによって、**Kerberos**領域のユーザが**[Sign In]**ページにユーザ名およびパスワードを入力することなくログインすることができます。許可されたユーザがHP SMHにアクセスし、有効な**Kerberos**証明書を持っている場合は、**ホーム** ページがHP SMH内に表示されます。

Kerberos認証は、HP SMH内の特別なURL /proxy/Kerberosを使用して行われます。このURLにアクセスすることで、SMHは要求内に**Kerberos**証明書を検索し、ユーザ認証を実行します。

ユーザが有効な**Kerberos**証明書を持っていない場合、または認証プロセス中にエラーが発生した場合は、**[サイン イン]**ページが表示され、エラー メッセージが表示されます。たとえば、認証に関わるマシン間のクロック スキューが大きすぎる場合は、エラー メッセージが表示され、**[サイン イン]**ページに移動されます。

Kerberos認証は、次のローカル アクセス状況では動作しません。

- KDC (AD) がインストールされたマシンからHP SMHにアクセスする
- HP SMHがインストールされたマシンからHP SMHにアクセスする

Kerberos認証は、次の表にある理由によって失敗します。

表 5-7 エラー メッセージ

状況	HTTPエラーコード	メッセージ
ユーザにKerberos証明書がない。	401	ERROR:Kerberos login failure; Authorization Required.

状況	HTTPエラーコード	メッセージ
ユーザはKerberos証明書を持っているが、マシン間のクロックスキューが大きすぎる。	505	ERROR:Kerberos login failure; Internal Server Error.
ユーザはKerberos証明書を持っていてマシン間のクロックスキューは制限内だが、SMH設定ファイル内の許可されたKerberosユーザリストにユーザがない。	401	ERROR:Kerberos login failure; Authorization Required.

認証エラーが発生すると、システム管理者は、SMH HTTPサーバエラーログを確認してエラーについての情報を入手する必要があります。

たとえば、マシン間のクロックスキューが大きすぎる場合は、次のログメッセージが書き込まれます。

```
[Mon Feb 11 13:18:37 2008] [error] [client 192.168.182.145]
mod_spnego:gss_accept_sec_context failed; GSS-API mechanism:Clock skew too great.
```

以下のレベルのユーザ権限を利用できます。

- **管理者** **[管理者]**アクセス権を持つユーザは、HP SMHによって提供されるすべての情報を表示できます。該当するデフォルトのユーザグループ（Windowsオペレーティングシステムでは**[管理者]**、HP-UXおよびLinuxでは**root**）は、常に、管理者アクセス権を持ちます。
- **オペレータ** **[オペレータ]**アクセス権を持つユーザは、HP SMHによって提供されるほとんどの情報を表示し、設定することができます。一部のWebアプリケーションでは、最も重要な情報へのアクセスが**[管理者]**のみに制限されています。
- **ユーザ** **[ユーザ]**アクセス権を持つユーザは、HP SMHによって提供されるほとんどの情報を表示できます。一部のWebアプリケーションでは、重要な情報の表示が、**[ユーザ]**アクセス権を持つユーザに対して制限されています。

Kerberosを有効化または無効化したり、許可されたKerberosユーザリストにユーザを追加したりするには、アクセスのレベルごとに以下の手順を行います。

Kerberosのサポートは、ユーザごとに提供されます。

Kerberos管理者

Kerberos管理者を追加するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[Kerberos認証]**リンクをクリックします。
4. **[Kerberos設定]**領域で、**[Kerberosサポートの有効]**の横のボックスを選択します。
5. **[グループ名]**テキストボックスに、*group@REALM*フォーマットまたは*REALM\group*で名前を入力します。
英数字およびアンダースコアのみが使用できます。~'!#\$%^&*()+=/'<>?,|;などの特殊文字は使用できません。
6. **[タイプ]**の横の**[管理者]**ラジオ ボタンをクリックします。
7. **[追加]**をクリックします。入力した値は、リスト テーブルの新しい行として追加されます。
手順5〜7を繰り返して、管理者アクセス権を続けて追加することができます。
8. **[適用]**をクリックします。

Kerberos管理者を削除するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[Kerberos認証]**リンクをクリックします。
4. HP SMHから削除するダイナミック リストで、**[グループ名]**の横のチェックボックスをクリックします。
5. **[削除]**をクリックします。
6. **[適用]**をクリックします。

Kerberosオペレータ

Kerberosオペレータを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[Kerberos認証]**リンクをクリックします。
4. **[Kerberos設定]**領域で、**[Kerberosサポートの有効]**の横のボックスを選択します。
5. **[グループ名]**テキストボックスに、`group@REALM`フォーマットまたは`REALM\groupname`で名前を入力します。
英数字およびアンダースコアのみが使用できます。~'!#\$%^&*()+=/'<>?,|;などの特殊文字は使用できません。
6. **[タイプ]**の横の**[オペレータ]**ラジオ ボタンをクリックします。
7. **[追加]**をクリックします。入力した値は、リスト テーブルの新しい行として追加されます。
手順5〜7を繰り返して、オペレータ アクセス権を続けて追加することができます。
8. **[適用]**をクリックします。

Kerberosオペレータを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[Kerberos認証]**リンクをクリックします。
4. HP SMHから削除するダイナミック リストで、**[グループ名]**の横のチェックボックスを選択します。
5. **[削除]**をクリックします。
6. **[適用]**をクリックします。

Kerberosユーザ

Kerberosユーザを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[Kerberos認証]**リンクをクリックします。
4. **[Kerberos設定]**領域で、**[Kerberosサポートの有効]**の横のボックスを選択します。
5. **[グループ名]**テキストボックスに、`group@REALM`フォーマットまたは`REALM\groupname`で名前を入力します。
英数字およびアンダースコアのみが使用できます。~'!#\$%^&*()+=/'<>?,|;などの特殊文字は使用できません。
6. **[タイプ]**の横の**[User]**ラジオ ボタンをクリックします。
7. **[追加]**をクリックします。入力した値は、リスト テーブルの新しい行として追加されます。
手順5〜7を繰り返して、ユーザ アクセス権を続けて追加することができます。
8. **[適用]**をクリックします。

Kerberosユーザを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[Kerberos認証]**リンクをクリックします。
4. HP SMHから削除するダイナミック リストで、**[グループ名e]**の横のチェックボックスを選択します。
5. **[削除]**をクリックします。
6. **[適用]**をクリックします。

関連手順

- **[匿名/ローカル アクセス]**
- **[IP バインド]**

- [IP限定ログイン]
- [ローカル サーバ証明書]
- 別名証明書
- ポート2301
- タイムアウト
- [信頼モード]
- [信頼済みマネジメント サーバ]
- [ユーザ グループ]

関連項目

▲ [設定]ページ

[ユーザ グループ]

HP SMHでは、認証にオペレーティング システム アカウントが使用され、オペレーティング システム アカウント グループ レベルでオペレーティング システム アカウントのアクセス レベルを管理することができます。

オペレーティング システム グループの**[管理者]**（Windows）またはオペレーティング システム グループの**[root]**（LinuxおよびHP-UX）（デフォルトでユーザrootに含まれている）の**ユーザ**は、**[管理者]**、**[オペレータ]**、または**[ユーザ]**のHP SMHアクセス レベルに対応するオペレーティング システム グループを定義できます。オペレーティング システム グループを追加すると、オペレーティング システムの管理者は、オペレーティング システムのユーザをこれらのオペレーティング システム グループに追加できます。

HP SMHの各アクセス レベルは、最大5つのオペレーティング システム グループに割り当てることができます。HP SMHのインストールによって、オペレーティング システムをHP SMHに割り当てることができます。HP SMHでは、指定されたオペレーティング システム グループがオペレーティング システムに定義されていない場合はオペレーティング システムを追加することができません。

HP SMHに使用されるアカウントは、ホスト オペレーティング システムで上位アクセスを持つ必要はありません。管理HP SMHユーザは、HP SMHの各アクセス レベルに対するオペレーティング システム ユーザ グループを指定することができます。その結果、各オペレーティング システム グループのすべてのアカウントが**[ユーザ グループ]**ウィンドウで指定されたHP SMHにアクセスできるようになります。



注記: すべてのユーザ グループは、HP System Management Homepageホスト システムに存在しなければなりません。

Windowsの管理者グループ、Linuxのルート グループ、およびHP-UXのルート グループには、HP SMHへの管理者アクセス権が割り当てられます。HP-UXでは、ルート ユーザのみが管理者クラスに割り当てられます。ルート グループのすべてのユーザが割り当てられるわけではありません。

たとえば、HP SMHの管理者アクセス レベルを、ユーザが作成したオペレーティング システム グループのAdmin1、Admin2、およびAdmin3に割り当てることができます。このオペレーティング システム グループ（Admin1、Admin2、またはAdmin3）のメンバーになっているすべてのユーザには、そのアカウントがホスト オペレーティング システムで上位アカウントを持っている場合でも、持っていない場合でも、HP SMHに対する管理者権限が付与されます。

[**ユーザ グループ**]ページにより、ユーザ グループをHP SMHに追加できます。以下のレベルのユーザ グループ権限を利用できます。

- **管理者** [**管理者**]アクセス権を持つユーザは、HP SMHによって提供されるすべての情報を表示できます。デフォルトのユーザ グループ (Windowsオペレーティング システムでは[**管理者**]、HP-UXおよびLinuxでは**root**) は、常に、管理者アクセス権を持ちます。
- **オペレータ** [**オペレータ**]アクセス権を持つユーザは、HP SMHによって提供されるほとんどの情報を表示し、設定することができます。一部のWebアプリケーションでは、最も重要な情報へのアクセスが[**管理者**]のみに制限されています。
- **ユーザ** [**ユーザ**]アクセス権を持つユーザは、HP SMHによって提供されるほとんどの情報を表示できます。一部のWebアプリケーションでは、重要な情報の表示が、[**ユーザ**]アクセス権を持つユーザに対して制限されています。

管理者グループ

管理者グループを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから[**設定**]を選択します。
2. [**System Management Homepage**]ボックスで、[**セキュリティ**]リンクをクリックします。
3. [**ユーザ グループ**]リンクをクリックします。
4. [**グループ**]領域で、[**グループ名**]テキストボックスにグループの名前を入力します。
すべてのユーザ グループは、HP System Management Homepageホスト システムに存在しなければなりません。
英数字およびアンダースコアのみが使用できます。~ '! @ # \$ % ^ & * () + = / " : ' < > ? , | ;などの特殊文字は使用できません。
5. [**タイプ**]の横の[**管理者**]ラジオ ボタンをクリックします。
6. [**追加**]をクリックします。入力した値は、リスト テーブルの新しい行として追加されます。
手順4〜6を繰り返して、最大5つの**管理者グループ**を続けて追加することができます。
7. SMHに追加するダイナミック リストで、[**グループ名**]の横のチェックボックスを選択します。
8. [**適用**]をクリックします。

管理者グループを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから[**設定**]を選択します。
2. [**System Management Homepage**]ボックスで、[**セキュリティ**]リンクをクリックします。
3. [**ユーザ グループ**]リンクをクリックします。
4. SMHから削除するダイナミック リストで、[**グループ名**]の横のチェックボックスを選択します。
5. [**適用**]をクリックします。

オペレータ グループ

オペレータ グループを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから[**設定**]を選択します。
2. [**System Management Homepage**]ボックスで、[**セキュリティ**]リンクをクリックします。
3. [**ユーザ グループ**]リンクをクリックします。
4. [**グループ**]領域で、[**グループ名**]テキストボックスにグループの名前を入力します。
すべてのユーザ グループは、HP System Management Homepageホスト システムに存在しなければなりません。
英数字およびアンダースコアのみが使用できます。~ '! @ # \$ % ^ & * () + = / " : ' < > ? , | ;などの特殊文字は使用できません。
5. [**タイプ**]の横の[**オペレータ**]ラジオ ボタンをクリックします。
6. [**追加**]をクリックします。入力した値は、リスト テーブルの新しい行として追加されます。
手順4〜6を繰り返して、最大5つの**オペレータ グループ**を続けて追加することができます。
7. SMHに追加するダイナミック リストで、[**グループ名**]の横のチェックボックスを選択します。
8. [**適用**]をクリックします。

オペレータ グループを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[ユーザ グループ]**リンクをクリックします。
4. SMHから削除するダイナミック リストで、**[グループ名]**の横のチェックボックスを選択します。
5. **[適用]**をクリックします。

ユーザ グループ

ユーザ グループを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[ユーザ グループ]**リンクをクリックします。
4. **[グループ]**領域で、**[グループ名]**テキストボックスにグループの名前を入力します。
すべてのユーザ グループは、HP System Management Homepageホスト システムに存在しなければなりません。
英数字およびアンダースコアのみが使用できます。~ '!@#\$%^&*()+=/' ': '<>?, | ;などの特殊文字は使用できません。
5. **[タイプ]**の横の**[User]**ラジオ ボタンを選択します。
6. **[追加]**をクリックします。入力した値は、リスト テーブルの新しい行として追加されます。
手順4~6を繰り返して、最大5つの**ユーザ グループ**を続けて追加することができます。
7. SMHに追加するダイナミック リストで、**[グループ名]**の横のチェックボックスを選択します。
8. **[適用]**をクリックします。

ユーザ グループを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. メニューから**[設定]**を選択します。
2. **[System Management Homepage]**ボックスで、**[セキュリティ]**リンクをクリックします。
3. **[ユーザ グループ]**リンクをクリックします。
4. SMHから削除するダイナミック リストで、**[グループ名]**の横のチェックボックスを選択します。
5. **[適用]**をクリックします。

関連手順

- [匿名/ローカル アクセス]
- [IP バインド]
- [IP限定ログイン]
- [ローカル サーバ証明書]
- 別名証明書
- ポート 2301
- タイムアウト
- [信頼モード]
- [信頼済みマネジメント サーバ]
- Kerberos権限手順

関連項目

- ▲ [設定]ページ

第6章 [タスク]ページ

[タスク]ページには、参加しているHP Webベース システム マネジメント ソフトウェアから提供されるルーチン タスクへのリンクが表示されます

HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアがタスクを提供しない場合、[タスク]ページは表示されません。

System（HP-UXのみ）

このカテゴリでは、サインインせずにシステム上でコマンドを容易に実行することが可能な、あらかじめ組み込まれた4つのタスクが提供されます。

- **[Launch X Application]**リンクを使用すると、Xアプリケーションを起動するオプションが表示されます。起動するXアプリケーションのコマンド行を入力します。コマンドはログインしたユーザのユーザIDで実行されるため、HP SMHユーザがこのタスクを実行できます。
- **[Launch X Application as Root]**リンクを使用すると、Xアプリケーションをroot権限で起動するためのオプションが表示されます。起動するXアプリケーションのコマンド行を入力します。このタスクを実行するには、HP SMH管理者権限を持つユーザとしてログインしてください。
- **[Run Command]**リンクを使用すると、コマンド実行のオプションが表示されます。コマンドはログインしたユーザのユーザIDで実行されるため、HP SMHユーザがこのタスクを実行できます。
- **[Run Command as Root]**リンクを使用すると、root権限でのコマンド実行のオプションが表示されます。このタスクを実行するには、HP SMH管理者権限を持つユーザとしてログインしてください。

関連項目

- 開始するには
- [ホーム]ページ
- [設定]ページ
- [タスク]ページ
- [ツール]ページ（HP-UXのみ）
- [ログ]ページ
- [Webアプリケーション]ページ
- [サポート]ページ
- [ヘルプ]ページ

第7章 [ツール]ページ（HP-UXのみ）

[ツール]ページには、参加しているHP Webベース システム マネジメント ソフトウェアから提供されるシステム マネジメント ツールへのリンクが表示されます。HP-UXの場合、[ツール]ページでは、*System Administration Manager* (SAM) のメインページ（SAM Functional Area Launcher (FAL) と呼ばれます）に類似した管理ツールへのエントリ ポイントが提供されます。HP-UXの場合、このページにはXベースの管理アプリケーション用のカテゴリとメニューもいくつか含まれています。[ツール]ページには、以下のリンクが表示されます。

- ユーザおよびグループのアカウント
- Audit Configuration
- Authenticated Commands (PAM)
- ディスクおよびファイル システム
- Distributed Systems Authentication Utilities (DSAU)
- Evweb
- IPMI Event Viewer
- カーネル設定
- ネットワークおよび通信
- nPartition Management
- 周辺装置
- Printer Management
- Resource Management
- Resource Monitor
- Serviceguard
- Software Management
- 時刻

これらの各機能領域には、それぞれに関連するオンライン ヘルプがあります。

HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアがツールを提供しない場合、[ツール]ページは表示されません。

関連項目

- 開始するには
- [ホーム]ページ
- [設定]ページ
- [タスク]ページ
- [ツール]ページ（HP-UXのみ）
- [ログ]ページ
- [Webアプリケーション]ページ
- [サポート]ページ
- [ヘルプ]ページ

第8章 [ログ] ページ

少なくとも、[ログ] ページは次のログ カテゴリを提供します。

- System Management Homepage ログ
- SAM ログ ビューワ（HP-UXのみ）
- Httpd エラー ログ

インストールされている *HP Web ベース システム マネジメント ソフトウェア* のログは、このページに表示できます。たとえば、*HP バージョン コントロール エージェント* がインストールされている場合、バージョン コントロール エージェント ログへのリンクが、[ログ] ページに表示されます。別の例として、Distributed Systems Administration (DSA) ユーティリティがインストールされている場合、System Log Viewer へのリンクが、[ログ] ページに表示されます。各ログファイルは、合計40のログ エントリを1ページに表示する複数のページに分割されます。



注記: このインストールでは、古い smh.log ファイルが、人間の読める英語のみのログとして予備に保管されます。ユーザ インタフェースからは使用できません。古いログを読むには、ファイルに直接アクセスしてください。新しいログ メッセージは、このファイルに書き込まれません。

smh_enc.log には、次の形式でコード化されたエントリが含まれます。

表 8-1 ログのコード化されたエントリ

タイプ	説明
深刻度	記録されたイベントの深刻度。深刻度は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 情報（5）• 警告（6）• マイナー（3）• メジャー（4）• クリティカル（8）
タイムスタンプ	イベントの発生した時刻。UTC 1970 年 1 月 1 日 00 時 00 分 00 秒からの秒数で表されます。
ID	ログ メッセージ ID。翻訳されたログ メッセージを特定するために使用します。
引数	%s や %d などの引数変換修飾子を使用するログ メッセージで printf() によって使用される引数。

関連手順

- System Management Homepage ログ
- SAM ログ
- Httpd エラー ログ

関連項目

- [ホーム] ページ
- [設定] ページ
- [タスク] ページ
- [ツール] ページ（HP-UXのみ）
- [Webアプリケーション] ページ

System Management Homepage ログ

[System Management Homepage ログ] には、*HP System Management Homepage*（HP SMH）の設定変更とサインインの成功や失敗も含まれます。HP SMH に直接、または *HP Systems Insight Manager*（HP SIM）からサインインするときの、サインインやアクセスの問題時のトラブルシューティングに役立ちます。

[**System Management Homepageログ**]にアクセスするには、HP SMHに対する管理者アクセス権が必要です。

HP SMHログにアクセスするには、メニューから [**ログ**] にアクセスし、[**System Management Homepage**] ボックスの[**System Management Homepageログ**]リンクをクリックします。

関連項目

- [**ログ**]ページ
- SAMログ
- Httpdエラー ログ

SAMログ

[**SAM Log**]リンクを使用すると、[**SAM Log Viewer**]にアクセスできます。**SAM Log Viewer**では、*HP-UX System Administration Manager* (SAM) ログ ファイルへのWebインタフェースを提供します。新しいWebベースの管理アプリケーションと既存のSAMアプリケーションがこのログ ファイルを使用します。

[**SAMログ**]は、HP-UXシステムのみで使用可能です。

SAMログにアクセスするには、メニューから [**ログ**] にアクセスし、[**System Management Homepage**] ボックスの[**SAM Log**]リンクをクリックします。

SAMログからのメッセージをフィルタするには、フィルタ条件を選択し、[**OK**]をクリックします。画面の下にメッセージが表示されます。

関連項目

- [**ログ**]ページ
- System Management Homepageログ
- Httpdエラー ログ

Httpdエラー ログ

[**Httpd Errorログ**]には、HP SMHモジュール、Kerberos設定エラー、およびCGI実行エラー (httpd) で生成されたエラー情報が含まれます。これは、サーバーの起動またはサーバーの操作で問題が発生したときに最初に確認する場所です。なぜなら、ログには問題の経過と解決方法の障害が記録されていることが多いからです。

[**Httpd Errorログ**]は、HP-UXではそのまま利用できますが、smhpd.xmlファイルにあるhttpd-error-logタグを追加することによって、WindowsおよびLinuxで認識することはできます。

[**Httpd Errorログ**]にアクセスするには、HP SMHに対する管理者アクセス権が必要です。

HP SMH 3.x以降では、smhconfigツールを次のように使用して、httpdエラー ログをHP SMHユーザインタフェースに表示することができます。

エラー ログの表示を有効にするには、以下のように入力してください。

```
smhconfig -p or --httpd-error-log True
```

エラー ログの表示を無効にするには、以下のように入力してください。

```
smhconfig -p or --httpd-error-log False
```

新しい設定を適用するには、HP SMHを再起動する必要があります。

HP SMHサービスを再起動するには、以下のように入力してください。

```
smhconfig -r
```

Httpdエラー ログにアクセスするには、以下のように入力してください。

メニューから [**ログ**] を選択し、[**System Management Homepage**] ボックスの[**Httpd Errorログ**]リンクをクリックします。

関連項目

- [\[ログ\]ページ](#)
- [System Management Homepageログ](#)
- [SAMログ](#)

サポートされる言語

HP SMHは、サポートされている言語用の翻訳済み文字列が含まれるPHPファイルを保持しています。サポートされる言語ごとに、`data/htocs/lang/`ディレクトリに`log_messages.php`という名前のファイルがあります。ここで、`lang`は、言語に対する2文字のサフィックスです。`log_messages.php`ファイルには、翻訳済みメッセージ文字列の配列と、翻訳済み深刻度の配列が含まれています。

次の表に、SMHのサポートする言語のロケール名を示します。

表 8-2 サポートされる言語のロケール名

言語	Linuxロケール名	Windowsロケール名
英語	en_US.UTF-8	english
日本語	ja_JP.UTF-8	japanese
ドイツ語	de_DE.UTF-8	german
スペイン語	es_ES.UTF-8	spanish
フランス語	fr_FR.UTF-8	french
イタリア語	it_IT.UTF-8	italian
韓国語	ko_KR.UTF-8	korean
簡体字中国語	zh_CN.UTF-8	chinese-simplified
繁体字中国語	zh_TW.UTF-8	chinese-traditional

次の表には、サポートされる各言語に基づいた、`log_messages.php`ページのサフィックスを示します。

表 8-3 サポートされる言語のサフィックス

言語	サフィックス
英語	en
日本語	ja
ドイツ語	de
スペイン語	es
フランス語	fr
イタリア語	it
韓国語	ko
簡体字中国語	zh
繁体字中国語	zh

関連手順

- [System Management Homepageログ](#)
- [SAMログ](#)
- [Httpdエラー ログ](#)

関連項目

- [\[ホーム\]ページ](#)
- [\[設定\]ページ](#)
- [\[タスク\]ページ](#)
- [\[ツール\]ページ（HP-UXのみ）](#)
- [\[Webアプリケーション\]ページ](#)

第9章 [Webアプリケーション]ページ

[Webアプリケーション]ページには、HP System Management Homepage（HP SMH）にインストールされたWebappsの一覧があります。次のHP Webベース システム マネジメント ソフトウェアへのリンクがあります。

[統合されたエージェント] Webapps名を一覧表示します。参加者は、HP SMHに含まれている情報を提供するエージェントです。この情報を提供するHP Webベース システム マネジメント ソフトウェアがインストールされていない場合は、情報メッセージが表示されます。

[他のエージェント] 表示できるHP Webベース システム マネジメント ソフトウェアを一覧表示します。HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアの名前により、リンクが提供されるため、そのエージェントがユーザインタフェースを提供する場合は、エージェントにアクセスすることが可能です。リンクをクリックすると、webappが新しいブラウザ ウィンドウに開きます。この情報を提供するHP Webベース システム マネジメント ソフトウェアがインストールされていない場合は、情報メッセージが表示されます。

関連項目

- 開始するには
- [設定]ページ
- [タスク]ページ
- [ツール]ページ（HP-UXのみ）
- [ログ]ページ
- [サポート]ページ
- [ヘルプ]ページ

第10章 [サポート]ページ

サポート ページは、HP Essentialsソフトウェアについての情報と、HPサポートおよび公式フォーラムからのガイダンスの入手方法を提供します。このページには、次のような、HP System Management Homepageサーバ ドメイン外のヘルプへのリンクも用意されています。

- [Insight Essentialsソフトウェア情報](#)
- [Integrity Essentialsソフトウェア情報](#)
- [サポート リンク](#)
- [フォーラム リンク](#)

関連項目

- [開始するには](#)
- [\[ホーム\]ページ](#)
- [\[設定\]ページ](#)
- [\[タスク\]ページ](#)
- [\[ツール\]ページ（HP-UXのみ）](#)
- [\[ログ\]ページ](#)
- [\[Webアプリケーション\]ページ](#)
- [\[ヘルプ\]ページ](#)

第11章 [ヘルプ]ページ

ヘルプ ページは、HP System Management Homepage（HP SMH）およびそのwebappsのヘルプを提供します。

ヘルプ ページには、次のリンクがあります。

- **[System Management Homepage Help]** HP SMHインフラストラクチャおよびその設定とログ ページについての情報が含まれます。残りのエントリは、システムにインストールされたwebapps（ヘルプ システムを提供するもの）に関連付けられたヘルプ システムにリンクします。
- **[クレジット]** オープン ソース ライセンスおよびクレジットに関する情報が表示されます。

HP SMHヘルプにアクセスするには、以下の手順に従ってください。

1. **[ヘルプ]**をクリックします。
2. **[System Management Homepageヘルプ]**リンクをクリックします。

[クレジット]にアクセスするには、以下の手順に従ってください。

1. **[ヘルプ]**をクリックします。
2. **[クレジット]**リンクをクリックします。

[Search Form]

[検索フォーム]セクションには、HP SMHヘルプを検索するための**検索用語**を入力するフィールドがあります。

検索を実行するには、以下の手順に従ってください。

1. **[検索フォーム]**セクションの**[search terms]**テキストボックスで、検索用語を入力します。
2. **[検索]**をクリックします。

検索条件が有効な場合は、クエリに一致するすべての文書の一覧が表示されます。

関連項目

- 開始するには
- **[ホーム]**ページ
- **[設定]**ページ
- **[タスク]**ページ
- **[ツール]**ページ（HP-UXのみ）
- **[ログ]**ページ
- **[Webアプリケーション]**ページ
- **[サポート]**ページ

[クレジット]

[クレジット]リンクにより、オープン ソース ライセンスおよびクレジットに関する情報が表示されます。

クレジットにアクセスするには、**[ヘルプ]**を選択し、**[クレジット]**リンクをクリックします。

関連項目

- ▲ **[設定]**ページ

第12章 コマンド ライン インタフェース設定

コマンド ライン インタフェース (CLI) は、コマンド ラインからこれらの値を設定するための管理権限 アクセスを与えます。CLIを使用して、設定オプションを変更可能にする必要なセキュリティ チェックを含む、設定オプションを変更することができます。



注記: `-kerberos`、`-user-kerberos`、`-operator-kerberos`、`-admin-kerberos`、`-max-threads`および `-win32-disable-acceptex` オプションは、Windowsオペレーティング システムでのみ使用可能です。



注記: 「-」から始まる長いオプションには、引数の前にオプションの記号「=」があります。

一部のCLIオプションでは、コマンドのオプションの概要にある大文字の単語として記述された特別な引数が必要です。これらの引数のフォーマットの説明は、次の表のとおりです。

表 12-1 CLI引数

引数タイプ	説明
DIR	HP SMHサービスが書き込みアクセスできるディレクトリへのパス。
FILE	ファイルへのパス。
GROUPLIST	セミコロンで区切られたグループ名の一覧。
IPBINDLIST	セミコロンで区切られた、IPv6アドレスおよびIPv4アドレス/ネットワーク ペアまたはそのいずれか。
IPLIST	セミコロンで区切られたIPアドレスの一覧。
NUM	設定されるオプションによって異なる範囲での数値。
NAMELIST	セミコロンで区切られたホスト名およびIPアドレスの一覧。
XENAMELIST	信頼済みサーバ ホスト名の一覧。

匿名アクセス

匿名アクセスは、セキュリティ保護されていないページへの匿名ユーザのアクセス（ローカル匿名アクセスを含む）を可能にします。次のコマンドは、匿名アクセス設定を有効または無効にします。

```
smhconfig -a|--anonymous-access [=] True | False
```

ローカル アクセス

ローカル アクセス コマンドは、指定したローカル システムへのアクセスを適用し、ローカル アクセス権限を匿名または管理者に設定します。ローカル アクセスを選択すると、ローカル コンソールにアクセスできるユーザはユーザ名とパスワードを聞かれることなく匿名または管理者アクセスを許可されません。

次のコマンドは、ローカル アクセスを有効または無効にします。

```
smhconfig -L|--localaccess-enabled [=] True | False
```

次のコマンドは、ローカル ユーザ権限を設定します。

```
smhconfig -l|--local-access [=] administrator | anonymous
```

IP限定ログイン

IPアドレスを、ユーザ タイプによって明示的に許可または制限することができます。IPアドレスが明示的に制限されている場合は、明示的に許可されていても制限されます。IPアドレスが許可リストに含まれる場合、それらのIPアドレスのみがログイン アクセスを許可されます。許可リストにIPアドレスがない場合、ログイン アクセスは、制限リストにないあらゆるIPアドレスに対して許可されます。

次のコマンドは、IP制限ログインを有効または無効にします。

```
smhconfig -P|--ip-restricted-login
```

IPアドレス内包 IPアドレス許可コマンドは、次のように実行します。

```
smhconfig -i|--ip-restricted-include [=] IPLIST
```

以下に、*IPLIST*のフォーマット例を示します。

```
122.23.44.1-122.23.44.255;172.84.100.35;172.168.10.5;168.172.10.1-168.172.10.128
```

IPアドレス除外 IPアドレス制限コマンドは、次のように実行します。

```
smhconfig -e|--ip-restricted-exclude [=] IPLIST
```

以下に、*IPLIST*のフォーマット例を示します。

```
122.23.44.1-122.23.44.255;172.84.100.35;172.168.10.5;168.172.10.1-168.172.10.128
```



注記: IPv4およびIPv6アドレス範囲がサポートされます。

[IP バインド]

IPバインドは、HP SMHが、IPバインド リストで設定されているアドレスのみを監視できるようにします。IPバインドが有効でIPバインド リストが空の場合は、HP SMHはローカルでのみアクセスできます。

IPバインド コマンドは、次のように実行します。

```
smhconfig -g|--ip-binding [=] True | False
```

IPバインド リスト IPバインドが有効な場合に使用されるIPバインド リストを設定するには、次のコマンドを使用します。

```
smhconfig -I|--ip-binding-list [=] IPBINDLIST
```

*IPBINDLIST*は、セミコロンで区切られたIPアドレスやIPアドレス/ネットマスク ペアである必要があります。

以下に、*IPBINDLIST*のフォーマット例を示します。

```
122.23.44.1-122.23.44.255;172.84.100.35;172.168.10.5;168.172.10.1-168.172.10.128
```

信頼モード

HP SMHは、Systems Insight Manager (HP SIM) またはInsightマネージャ 7 (IM 7) セキュア タスク実行要求およびシングル サインオン要求をさまざまなセキュリティ レベル (すべて信頼から信頼済み証明書のあるHP SIMまたはInsightマネージャ 7のみまでの範囲) で信頼します。

- **すべて信頼** このコマンドは、あらゆるHP SIMまたはInsightマネージャ 7サーバからのすべてのセキュア タスク実行およびシングル サインオン要求を受け入れるようにhttpサーバを設定します。

```
smhconfig -t|--trust-mode [=] TrustByAll
```

- **名前による信頼** このコマンドは、一覧にあるHP SIMまたはInsightマネージャ 7サーバからのセキュア タスク実行およびシングル サインオン要求のみを受け入れるようにHP SMHを設定します。

```
smhconfig -t|--trust-mode [=] TrustByName
```

信頼済みサーバ名リストをTrustByName信頼モードに設定するには、次のコマンドを使用します。

```
smhconfig -X|--xe-name-list [=] XENAMELIST
```

*XENAMELIST*は、信頼するSystems Insight ManagerまたはInsightマネージャ 7サーバの一覧で、コンマまたはセミコロンを区切り文字に使用します。以下に、名前リストのフォーマットの例を示します。

```
server1,server2.domain1;server3,server4.domain2
```

- **信頼済み証明書** このコマンドは、証明を使用してHP SIMまたはInsightマネージャ 7とHP SMH間の信頼関係を確立します。信頼モードは、次のコマンドを使用してTrustByCertに設定されます。

```
smhconfig -t|--trust-mode [=] TrustByCert
```

信頼済み証明書は、次のコマンドを使用して信頼済み証明書リストに追加されます。

```
smhconfig -C|--trust-certificate [=] FILE
```

*FILE*は、信頼済み証明書リストに追加する、Base64コード化証明書が含まれるファイルの名前です。

サービスの再起動

新しいコンフィギュレーション設定の適用完了時にHP SMHを再起動してください。

```
smhconfig -r|--restart
```

プログラム管理者ログインの拒否

HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアまたはVCAログイン要求を拒否または受け入れてください。

```
smhconfig -j|--reject-prog-admin-login [=] true|false
```

Win32DisableAcceptEX

AcceptEx()は、Microsoft WinSock v2 APIで、特定の環境においてBSD style accept() APIを使用するよりもパフォーマンスを改善します。いくつかの一般的なWindows製品（通常、ウイルス スキャンや仮想プライベート ネットワーク パッケージ）には、AcceptEx()の動作に干渉するバグがあります。次のようなエラーが発生した場合：

```
[error] (730038) An operation was attempted on something that is not a socket::winnt_accept:AcceptEx failed.Attempting to recover.
```

次のディレクティブを使用して、AcceptEx()の使用を無効にしてください。

```
smhconfig -w|--win32-disable-acceptex [=] True | False
```



注記： Win32DisableAcceptEXは、Windowsオペレーティング システムでのみ使用できる機能です。

SSL v2の無効化

デフォルトで、HP SMHではSSL v2が無効になっています。SSL v2を有効にし直すには、次のスイッチを使用します。

```
smhconfig -s|--disable-sslv2 [=] True | False
```

ログ ローテーション

ログ ファイルは、大きくなって管理しにくくなることがあります。次のスイッチは、ログ ファイルが、5M（デフォルトのサイズ）に達したときに自動的にローテーションできるようにします。オプションをオフにして次のローテーションでログ ファイルを上書きさせるか、オプションをオンにして新しいファイルを作成し前のファイルが古いファイルと印を付けるかのいずれかです。

```
smhconfig -A|--rotate-logs [=] 0 | 1 | 2
```

パラメータ：0=オフ、1または2=オン。

ローテーション ログ サイズ

ログ ファイルは、大きくなって管理しにくくなることがあります。次のスイッチでは、ユーザがログ ファイルのサイズを設定できます。

```
smhconfig -z|--rotate-log-size [=] size
```

ここで、sizeは、1～9MBの値です。

可能な最大スレッド数

[Maximum Number of Threads Allowed]の値によって、ユーザは、ページ要求のためにHP SMHが作成するスレッドの最大数を増やしたり減らしたりすることができます。Windowsのデフォルトは、64です。



注記： 可能な最大スレッド数は、Windowsオペレーティング システムでのみ使用できます。

```
smhconfig -M|--max-threads [=] max-number-of-threads
```

ここで、max-number-of-threadsは、64～512の範囲の数字です。

可能な最大スレッド数は、Windowsでのみ使用できます。

セッションの最大数

デフォルトで、HP SMHは128のユーザセッションをサポートします。この数字は、`session-maximum`設定を使用して、32に下げたり500に上げたりすることができます。

```
smhconfig -S|--session-maximum [=] maximum-number-of-sessions
```

セッション タイムアウト

デフォルトのセッション タイマは、15分に設定されています。セッション タイムアウトは、1分から60分に設定できます。

```
smhconfig -U|--session-timeout [=] session-timeout-in-minutes
```

IP変更の監視

システム フェールオーバーがクラスタ環境で発生すると、IPアドレスが変わります。この特殊なケースを監視するには、`monitor-ip-changes`を使用します。デフォルトは0に設定されています。これはオフの状態です。

```
smhconfig -N|--monitor-ip-changes [=] 0 | 1
```

ログ レベル

デフォルトで、HP SMHエラー メッセージのロギング レベルは`error`に設定されています。ログ レベルが設定されると、設定されたログ レベルと同じまたはそれより大きなすべてのイベントがログ ファイルに書き込まれます。ログ レベル オプションは、Windowsでは `SystemDrive:\hp\hpsmh\logs`、Linuxでは `/var/spool/opt/hp/hpsmh/logs` の下の `error_log` ファイルにのみ影響を与えます。

重要度の低い順に、次の値が使用できます。

表 12-2 ログ レベル

値	説明
emerg	緊急 - システムが使用できません
alert	すぐに対処する必要があります
crit	クリティカル状態
error:	エラー状態
warn	警告状態
notice	正常であるが有意状態
info	情報
デバッグ	デバッグレベルのメッセージ

```
smhconfig -v|--log-level [=] logging-level
```



注記: ログ レベルは、HTTPエラー ログに書き込まれる新しいメッセージにのみ影響を与えます。システムのソフト再起動を実行する必要があります。

ポート 2301

ポート 2301は、HP SMHが2301を監視するかどうかを決定します。値が`True`に設定されると、HP SMHはポート 2301を監視します。値が`False`に設定されると、HP SMHはポート 2301を監視しません。

デフォルトでは、ポート 2301を監視します。

```
smhconfig -T|--port2301 [=] True | False
```

マルチホームされた証明書別名リスト

`multihomed`オプションを使用して、証明書の`name`を設定することができます。

コンソールで単一のコマンドを使用してmultihomed値でsmhconfigを実行するときは、hpsmhdサービスを再起動することが重要です(<--restartオプション)。

```
smhconfig -u|--multihomed [=] NAMELIST
```

```
smhconfig -u|--multihomed [=] NAMELIST --restart
```

NAMELISTは、セミコロンで区切られたIPアドレスおよびホスト名の一覧である必要があります。

カスタムUI

カスタムUIを有効にすると、サインインおよびヘッダ画像をカスタマイズしたり、サインインページに小さなテキストを追加したりすることができます。HP SMHインストール パスのhpsmh/data/htdocs/custom_uiディレクトリにあるHP SMH README.txt を参照してください。

```
smhconfig -c|--custom-ui [=] True | False
```

Httpdエラー ログ

httpd error log オプションを使用すると、httpd_error_logログ ファイルをユーザ インタフェースから表示できるようにするかどうかを決めることができます。

```
smhconfig -p|--httpd-error-log [=] True | False
```

アイコン ビュー

アイコン ビューを使用すると、デフォルトのビュー モードを、デスクトップのファイル マネージャの外観のようにアイコンを表示するように設定するか(True)、項目をボックスに表示する従来のリストを表示するか(False)を設定することができます。

```
smhconfig -n|--iconview [=] True | False
```

ボックス順

ボックス順は、ボックスを表示するために使用する順序づけ方法を定義します。**name**を選択して英数字順にボックスを配置するか、**status**を選択して最も悪いステータス(クリティカル)から最も良いステータス(正常)の順にボックスを表示することができます。

```
smhconfig -x|--box-order [=] Name | Status
```

ボックス項目順

ボックス項目順は、ボックス内の項目を表示するために使用する順序づけ方法を定義します。**name**を選択して英数字順にボックスを配置するか、**status**を選択して最も悪いステータス(クリティカル)から最も良いステータス(正常)の順にボックスを表示することができます。

```
smhconfig -b|--box-item-order [=] Name | Status
```

Kerberos認証

Kerberos認証サポートを有効または無効にするには、以下の手順に従ってください。

```
smhconfig -k|--Kerberos [=] True | False
```

管理者Kerberosユーザ 管理者権限のあるKerberosドメインからのユーザのKerberosグループを設定するには、次のコマンドを使用してください。

```
smhconfig -m|--admin-kerberos [=] GROUPLIST
```

注: GROUPLISTは、単一のKerberosグループ、またはセミコロンで区切られたKerberosグループ名の一覧です。



注記: --admin-kerberosは、Windowsオペレーティング システムでのみ使用できます。

オペレータKerberosユーザ オペレータ権限のあるKerberosドメインからのユーザのKerberosグループを設定するには、次のコマンドを使用してください。

```
smhconfig -R|--operator-kerberos [=] GROUPLIST
```

注：GROUPLISTは、単一のKerberosグループ、またはセミコロンで区切られたKerberosグループ名の一覧です。



注記： `-operator-kerberos`は、Windowsオペレーティング システムでのみ使用できます。

ユーザ Kerberos ユーザ ユーザ権限のあるKerberosドメインからのユーザのKerberosグループを設定するには、次のコマンドを使用してください。

```
smhconfig -K|--user-kerberos [=] GROUPLIST
```

注：GROUPLISTは、単一のKerberosグループ、またはセミコロンで区切られたKerberosグループ名の一覧です。



注記： `-user-kerberos`は、Windowsオペレーティング システムでのみ使用できます。

ユーザ グループ

ユーザ グループは、HP SMHの機能にアクセスして変更するポリシー式です。既存の有効なオペレーティング システム グループのみをグループ リストに追加することができます。

グループをHP SMHユーザ タイプに追加するには、以下を実行してください。

[管理者] 管理者アクセス権を持つユーザは、HP SMH全体で提供されるすべての情報を表示して設定できます。

デフォルトのユーザ グループ（Microsoft社製オペレーティング システムでは**[管理者]**、Linuxでは**root**）は、常に、管理者アクセス権を持ちます。

ドメインの一部であるWindowsシステムは、あらゆるレベルのアクセス用にドメイン グループおよびローカル グループを指定することができます。

```
smhconfig -d|--admin-group [=] [ groupList ]
```

オペレータ オペレータ アクセス権を持つユーザは、HP System Management Homepageによって提供されるほとんどの情報を表示し、設定することができます。一部のWebアプリケーションでは、最も重要な情報へのアクセスが**[管理者]**のみに制限されています。

```
smhconfig -E|--operator-group [=] [ groupList ]
```

ユーザ ユーザ アクセス権を持つユーザは、HP System Management Homepageによって提供されるほとんどの情報を表示できます。一部のWebアプリケーションでは、重要な情報の表示が、ユーザアクセス権を持つユーザに対して制限されています。

```
smhconfig -G|--user-group [=] [ GROUPLIST ]
```

ここで、*groupList*は、単一のオペレーティング システム グループ、またはセミコロンで区切られたオペレーティング システム グループ名の一覧です。

ヘルプ メッセージ

画面にヘルプメッセージを表示するには、次のコマンドを使用してください。

```
smhconfig -h|--help
```

ファイルベースコマンド ライン インタフェース

コマンド ライン インタフェース（CLI）オプションを使用すると、設定パラメータのあるファイルをコマンド ラインに渡すことができます。CLIは、ファイルを解析して引数进行处理します。CLIへの入力用のファイルを使用するコマンドは、次のとおりです。

```
smhconfig -f configFile
```

コマンド ライン インタフェースファイル構造 CLIファイル構造フォーマットには、コメント用の#文字、設定するパラメータを示す括弧付きのキーワード、およびパラメータ値が含まれています。CLIファイル構造フォーマットの例は、次のとおりです。

Characters placed after the # on a given line are not parsed.

smhconfig用の設定ファイルの例は、次のとおりです。

SMH configuration file for smhconfig

```
[anonymous-access]
false
[localaccess-enabled]
true
[localaccess-type]
administrator
[user-group]
users
```

関連項目

▲ [\[設定\]ページ](#)

第13章 ファイルの位置

表 13-1 HP SMHファイルの位置

説明	Windows	Linux	HP-UX
HP SMHのルート HP SMHインストールのルート。	<i>SystemDrive\hp\hpsmh</i>	<i>/opt/hp/hpsmh</i>	<i>/opt/hpsmh</i>
HP SMHの実行可能ファイル HP SMHのバイナリ ファイル。 webappは、このファイルの存在の検出してHP SMHがシステムにインストールされていることを確認することができます。	<i>SystemDrive\hp\hpsmh\bin\hpsmhd.exe</i>	<i>/opt/hp/hpsmh/sbin/hpsmhd</i>	<i>/opt/hpsmh/lbin</i>
証明書およびキー ファイル HP SMHで使用される証明書およびプライベート キー ファイル。これは、複数の管理アプリケーションによって使用される共有された位置です。キーは、1024ビットの場合と2048ビットの場合があります。	<i>SystemDrive\hp\sslshare\cert.pem</i> <i>SystemDrive\hp\sslshare\file.pem</i>	<i>/etc/opt/hp/sslshare/cert.pem</i> <i>/etc/opt/hp/sslshare/file.pem</i>	<i>/opt/hpsmh/sslshare</i>
HP SMH XML設定 このファイルは、HP SMH自体によってのみ変更されます。	<i>SystemDrive\hp\hpsmh\conf\smhpd.xml</i>	<i>/opt/hp/hpsmh/conf/smhpd.xml</i>	<i>/opt/hpsmh/conf.common/smhpd.xml</i>
HP SMH confファイル confファイルは、起動時およびディスク上のバージョン変更のたびに再生成されます。	<i>SystemDrive\hp\hpsmh\conf\smhpd.conf</i>	<i>/opt/hp/hpsmh/conf/smhpd.conf</i>	<i>/opt/hpsmh/conf</i>
2381ドキュメント ルート ポート2381 (HTTPS) で提供される文書用のルート。	<i>SystemDrive\hp\hpsmh\data\htdocs</i>	<i>/opt/hp/hpsmh/data/htdocs</i>	<i>/opt/hpsmh/data/htdocs</i>
2301ドキュメント ルート ポート2301で提供される文書用のルート。セキュリティ上の制限によって、特定のHP SMH文書のみ、このディレクトリ (HTTP) 外で提供することができます。	<i>SystemDrive\hp\hpsmh\data\isdocs</i>	<i>/opt/hp/hpsmh/data/isdocs</i>	<i>/opt/hpsmh/data/isdocs</i>
cgi-binルート 実行可能コンテンツのルート。	<i>SystemDrive\hp\hpsmh\data\cgi-bin</i>	<i>/opt/hp/hpsmh/data/cgi-bin</i>	<i>/opt/hpsmh/data/cgi-bin</i>
ヘルプのルート ヘルプ ファイルの置かれるルート。	<i>SystemDrive\hp\hpsmh\data\help</i>	<i>/opt/hp/hpsmh/data/help</i>	<i>/opt/hpsmh/data/help</i>
Webapp XMLファイル webapp XML設定ファイルのあるルート。	<i>SystemDrive\hp\hpsmh\webapp</i>	<i>/opt/hp/hpsmh/webapp</i>	<i>/opt/hpsmh/webapp</i>

関連項目

- ▲ [Webアプリケーション]ページ

第14章 トラブルシューティング

アクセスの問題
ブラウザの問題
クラスタの問題
インストールの問題
IPアドレスの問題
サインインの問題
セキュリティの問題
その他の問題



注記: このトピックは、HP-UX、Linux、またはWindowsオペレーティング システムのみに適用されません。

14.1 アクセスの問題

- 14.14.1.1 セキュリティに関するSMHのドキュメントが不明確
HP System Management Homepage (HP SMH) は、`/etc/securetty`を使用しません。`/etc/securetty`について詳しくは、*login(1)*を参照してください。
- 14.14.1.2 Linuxでホスト名を入力した後、HP SMHが開始されない。
Linuxでは、64文字以上のホスト名をサポートしていません。

14.2 ブラウザの問題

- 14.14.2.1 HP SMHにサインインしてブラウザを閉じて、HP SMHのセッションが終了しない。閉じた後にInternet Explorerを開くと、認証情報なしでHP SMHにログインできてしまう。どうすればこの問題を解決することができますか？
HP SMHのショートカットで認証情報を確認させるには、2つの解決策があります。
- 解決策1:
1. [ツール]、[インターネット オプション]を選択します。
 2. [詳細設定]タブを選択します。
 3. [設定]、[ブラウズ]の下にある[ショートカットの起動時にウィンドウを再使用する (タブブラウズが無効である場合)]の選択を解除します。
 4. [OK]をクリックします。
- 解決策2:
1. [ツール]、[インターネット オプション]を選択します。
 2. [全般]タブの下で、[タブ][タブの中のWebページの表示方法を設定します。]を検索します。[設定]をクリックします。
 3. [他のプログラムのリンクを開く方法:]から、3番目の[現在のタブまたはウィンドウ]を選択します。
 4. [タブブラウズの設定]ウィンドウの[OK]をクリックします。
 5. [OK]をクリックして、[インターネット オプション]を閉じます。
- 14.14.2.2 Windows環境でInternet Explorer 6.0を使用しています。HP System Management Homepage (HP SMH) にサイン インするときに[セキュリティの警告]ダイアログ ボックスで警告が表示されるのはなぜですか？

次の2つの警告があります。

- 警告1: セキュリティ証明書上の名前が無効であるか、またはサイト名と一致しません。
IPアドレスを使用してHP SMHにアクセスすると、この警告が表示されます。また、マシン名にlocalhostを使用してローカル アクセスする場合にも、この警告が表示されます。
- 警告2: このセキュリティ証明書は、信頼する会社から発行されていません。証明書を表示して、この証明機関を信頼するかどうか決定してください。
HP SMHによって証明書が発行されています。証明書は[信頼された証明書リスト]に追加でき、追加すると警告が表示されなくなります。

- 14.14.2.3 2つ目のMozillaブラウザを開くと、HP System Management Homepageへの不正サインインと表示される場合があります。
別々に起動された複数のMozillaブラウザは、セッションを共有します。
デスクトップから起動する場合、個別のセッションはMozillaで共有されます。ただし、Internet Explorerでは共有されません。
- 14.14.2.4 Windows 2003で動作するInternet ExplorerからHP System Management Homepageにアクセスすると、セキュリティ メッセージが表示されたり、ページの一部しか表示されなかったりします。
Windows 2003 Serverでは、Internet Explorer 6.0は、デフォルトのセキュリティ設定が異なります。この問題を防止するには、各管理対象システムをローカルイントラネットゾーンに2回追加します。1回はhttp://ホスト名:2301として、もう1回はhttps://ホスト名:2381としてです。この解決策以外には、ブラウザのセキュリティ設定のレベルを下げる（おすすしめしません）方法、またはCookie（保存されているものとセッションごとの両方）とアクティブスクリプトを許可するようにブラウザのセキュリティ設定を変更する方法があります。
- 14.14.2.5 ブラウザ ページにコンテンツの一部が表示されません。原因は何ですか？
フレーム サイズは、中くらいのサイズのフォント用に最適化されています。より大きな、またはより小さなフォントを使用するように切り替えた場合は、フレームのレイアウトを、マウスを使用して手動で調整してください。
- 14.14.2.6 システムにアクセスする際にブラウザがCookieの受け入れを求めるのはなぜですか？
ブラウザのCookieは、ユーザの状態とセキュリティを追跡するために必要です。ブラウザでCookieを有効にする必要があります、有効にすると、Cookieの受け入れを求めるメッセージは表示されなくなります。
- 14.14.2.7 HP-UXにhttp://ホスト名:2301/ではログインできますが、https://ホスト名:2381/ではできません。
デフォルトでは、HP-UXのインストールはautostart機能を有効にします。デーモンはポート2301を監視し、ポート2381からリクエストされたHP SMHのみ開始し、タイムアウト時間が経過すると停止します。詳しくは、smhstartconfig(1M)コマンドを参照してください。
- 14.14.2.8 Windows 2003で動作するローカル マシンでhttps://IPアドレス:2381にアクセスすると、[サイン イン]画面が表示されません。
Windows 2003でInternet Explorer 6.0を使用している場合、完全な[サイン イン]ページが表示される代わりに、青色のバーに[Account Sign in]というテキストだけが表示されることがあります。この問題は、ローカル システムまたはリモート システムでアクセスする場合に発生します。
この問題を解決するには、Javascriptのサポートを有効にして、このサイトを信頼済みサイトのリストに追加してください。

14.3 クラスタの問題

- 14.14.3.1 クラスタのフェールオーバーが発生した後に、クラスタのIPアドレスのHP SMHにアクセスできなくなりました。
HP SMH 2.1.4（SmartStart 7.5以降で利用可能）以降をインストールするか、クラスタに適応させるようにXMLファイルを変更します。

以下の手順を実行することをおすすめします。

1. 念のため、既存のsmhpd.xmlファイルを別のディレクトリにコピーします。
2. 手動でタグを追加します。
 - a. 起動ドライブの\hp\hpsmh\confディレクトリのsmhpd.xmlをテキストエディタで開きます。
 - b. <system-management-homepage>と</system-management-homepage>タグの間に次の行を追加します。

```
<monitor-ip-changes>1</monitor-ip-changes>
```
 - c. ファイルを保存します。
3. クラスタ フェールオーバーのターゲットとなるすべてのシステムでこの手順を行います。
4. 両方のシステムのHP SMHサービスを再起動します。

14.4 インストールの問題

- 14.14.4.1 Windowsシステムで証明書をインポートするためにsetup.exe /rを実行すると、インストールに失敗する。
証明書をインポートまたはコピーするときにsetup.exe /rを使用しないでください。その代わりに、HP SIMの[エージェントの設定および修復]ツールを使用してください。
- 14.14.4.2 HP SMHをインストールしていると、「another instance is running.」というエラーが表示されました。
HP SMHのインストール プログラムが、壊れたファイルを持つシステムまたはインストールが中止されたシステムへのインストールを試みました。
この問題を解決するには、HP SMHシステムの\tempディレクトリに移動して、smhlock.tmpファイルを削除してください。
- 14.14.4.3 HP SMHをインストールしていると、次のエラーが表示されました。error:cannot get exclusive lock on /var/lib/rpm/Packages error: cannot open Packages index using db3 - Operation not permitted (1) error: cannot open Packages database in /var/lib/rpm.
このエラーは、linuxシステムでインストール処理の複数のインスタンスを起動すると表示されます。HP SMHのインストールは、一度に1つずつしか実行できません。

14.5 IPアドレスの問題

- 14.14.5.1 IPv6アドレスでHP SMHにアクセスすると、いつセキュリティ警告が表示されますか？
IPv6アドレスを使用するには、以下のブラウザが必要です。
- **Windows OS** Internet Explorer 7
 - **Linux OS** Mozilla Firefox
- 注：Internet Explorer 6は、IPv6アドレスを処理できません。詳しくは、<http://blogs.msdn.com/ie/archive/2007/02/20/ipv6-uris-in-ie7.aspx>およびMicrosoft社のサポート ページ<http://support.microsoft.com/kb/325414>を参照してください。
- セキュリティ保護されたページを表示すると、Internet Explorer 7は、ページを信頼済みサイトゾーンに追加するかどうかを尋ねてきます。[追加]をクリックしても、メッセージがまだ表示されます。この場合は、Internet Explorer 7がIPv6 URLの処理に失敗しています。なぜなら、Internet Explorer parserは、コロンをIPアドレスとポート番号の区切り文字として使用するからです。たとえば、次のファイルを作成します。
- IPv4では、HP SMHのIPアドレスはhttps://127.0.0.1:2381となることがあります。IPアドレスは127.0.0.1で、ポート番号が2381です。
 - IPv6では、HP SMHのIPアドレスはhttps://[2001:db8:c18:1:21a:4bff:fe4c:c8e0]:2381となることがあります。この場合、IPアドレスは、2001:db8:c18:1:21a:4bff:fe4c:c8e0でポート番号は2381です。Internet Explorerはコロンを区切り文字として検索し、[2001をIPアドレスとして使用します。

IPv6アドレスでアクセスするときのセキュリティ警告を回避するには、次のいずれかを選択してください。

- IPv6アドレスでサポートされたDNS名を使用します。
- ポート番号なしでローカル イン트라ネット サイトまたはInternet Explorer 7の信頼済みサイトにリテラルIPv6アドレスを追加します。たとえば、ポート番号を追加せずに **http://[2001:db8:c18:1:250:8bff:fee2:4ed8]** および **https://[2001:db8:c18:1:250:8bff:fee2:4ed8]** を追加します。

14.14.5.2 IPアドレスを調べずにブラウザで簡単にローカル システムにアクセスする方法はありますか？

はい。**https://hostname:2381**または**https://127.0.0.1:2381**でローカル システムにアクセスできます。HP-UXでは、デフォルト設定のautostartを有効にしている場合は、**http://hostname:2301**でローカル システムにアクセスできます。



注記: 「localhost」という文字列は、一部の言語では使用できません。また、ブラウザでプロキシサーバを設定している場合は、ブラウザのプロキシを使用しないアドレスのリストに127.0.0.1を追加しなければならない場合があります。

14.14.5.3 **[IP限定ログイン]**機能を使用する場合、使用しているサーバのIPアドレスを入力しても機能しません。ローカル マシンのIPアドレスがこの機能によって確実に認識されるようにするには、どうすればよいでしょうか？

ローカル マシンを制限する場合は、サーバのIPアドレスに加えて127.0.0.1を入力します。127.0.0.1というアドレスは、常に**[IPアドレス包括リスト]**セクションで許可されています。このアドレスは、**[IPアドレス除外リスト]**セクションに明示的に含まれている場合にのみ制限されます。

14.14.5.4 IPアドレス制限を設定しているのに、localhostアクセスが拒否されません。このようなことがなぜ起きるのでしょうか？

ほとんどのユーザはローカル ホスト アクセスをブロックしようとしないうえ、ローカルホストのIPアドレスが**[IPアドレス包括リスト]**フィールドに含まれていない場合、ローカルホストにはアクセス権が付与されます。localhostアクセスをブロックしなければならない場合は、**[IP限定ログイン]**の**[IPアドレス除外リスト]**フィールドに**127.0.0.1**を入力してください。

14.14.5.5 **[IP限定ログイン]**でシステムのローカルIPアドレスや127.0.0.1が**[IPアドレス包括リスト]**リストに含まれていないのに、システムにローカルにアクセスできます。

ユーザが誤ってHP SMHへのアクセスからロックアウトされることを防止するために、localhostリクエストは、ローカルIPアドレスが**[IPアドレス包括リスト]**リストに含まれていなくても拒否されません。必要な場合は、ローカル システムのIPアドレスと127.0.0.1を**[IPアドレス除外リスト]**リストに追加すると、ローカル システムからのアクセスの試みがすべて拒否されます。

14.6 サインインの問題

14.14.6.1 SMHがデスクトップで対話を許可するように設定されていると、HP SMHバージョン2.1.3（以降）を実行しているProLiantサーバでWindowsオペレーティング システムにサインオンした後、画面にROTATELOGS.EXEコマンド プロンプトが表示される。この現象が発生した場合は、1つまたは2つの小さなコマンド プロンプト ウィンドウに以下のようなメッセージが表示されます。

```
(drive) : \hp\hpsmh\bin\rotatelog.exe
```

コマンド プロンプト ウィンドウは、サーバやSMHのパフォーマンスおよび機能には影響されませんので、無視してください。

Windows 2000 ServerまたはWindows Server 2003（すべてのバージョン）とHP SMHバージョン2.1.3（以降）で構成されたすべてのProLiantサーバで、SMHがデスクトップで対話を許可している場合、影響される場合があります。

HP SMHがサーバ デスクトップの対話を禁止するには、以下の手順に従ってください。

1. **[スタート]→[プログラム]→[管理ツール]→[サービス]**の順に選択します。
2. HP System Management Homepageの**[プロパティ]**をクリックします。

3. **[ログオン]**タブをクリックします。
4. **[デスクトップとの対話をサービスに許可]**の選択を解除します。
5. **[適用]**をクリックし、**[OK]**をクリックします。
6. HP System Management Homepageサービスを再起動します。

- 14.14.6.2 HP SMH **ユーザ グループ**設定ページから、**Backup Operators**、**Administrator**、**Operator**、および**User**などのWindowsで定義されたユーザ グループに権限を与えましたが、そのグループのユーザがサインインできない、またはHP SMHでの権限が正しくない。
HP SMHは、Windowsの定義した4つのユーザ グループ、**Administrators**、**Users**、**Guests**、および**Power Users**のみを認識します。**Backup Operators**など他のWindowsのグループは認識されません。



注記: Linuxでは、グループは、groupaddとしてシステム ツールを使用して前もって作成しておく必要があります。

- 14.14.6.3 Windowsシステムで**Backup Operators**グループに定義された管理者アカウントでHP SMHにサインインすると、サインインに失敗する。
Windowsシステムのユーザ グループは、**Administrators**、**Users**、**Guests**、および**Power Users**のみ認識されます。**Backup Operators**など他のWindowsのグループは認識されません。新しいグループを作成し、それを使用してHP SMHへのアクセスを提供してください。
- 14.14.6.4 Windowsオペレーティング システムを実行しているサーバでHP SMHにサインインできません。

以下の手順を実行してください。

1. Windowsオペレーティングシステムの有効なアカウントが設定されていることと、サインインが**[管理者]**グループまたはHP SMHのいずれかのオペレーティング システムグループに含まれていることを確認してください。
2. オペレーティングシステムにサインインし、メッセージが表示されたらパスワードを変更します。

このパスワード メッセージが表示される場合、オペレーティング システムの管理者は、**[ユーザは次回サインオン時にパスワードの変更が必要]**を選択した状態でユーザアカウントを設定しています。

オペレーティング システム グループの管理者は、将来作成される任意のサインインを、**[ユーザは次回サインオン時にパスワードの変更が必要]**オプションを選択せずに追加することができます。さらに、このオプションが選択されている場合、HP SMHにサインインする前にオペレーティング システムでパスワードを変更できます。

- 14.14.6.5 Windows XPオペレーティング システム環境でHP SMHにサインインできません。
[プログラム]→[管理ツール]→[ローカルセキュリティ ポリシー]の順に選択し、**[ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル]**のポリシーを**[Guestのみ]**から**[クラシック]**に変更します。

- 14.14.6.6 Web管理対象製品をアップグレードするとパスワードを使用できなくなるのはなぜですか？
HP SMH 2.0以降がオペレーティング システム アカウントを使用するのに対して、それまでのバージョンは固定アカウント（**管理者**、**オペレータ**、および**ユーザ**）を使用します。管理者グループ（Linuxの場合はルート グループ）に含まれるすべてのオペレーティング システム アカウントは、HP SMHに対する管理者アクセス権を持ちます。このアカウントでアクセスすると、他のオペレーティング システム アカウント グループにHP SMHへの異なるアクセスレベルを割り当てることができます。このプロセスについて詳しくは、HP SMHのオンライン ヘルプを参照してください。「**[ユーザ グループ]**」を参照してください。



注記: これは、HP-UXには適用されません。

- 14.14.6.7 HP SMHに使用するためにデフォルト設定でWindowsの新しいアカウントを作成しましたが、このアカウントを使用してサインインすることができません。
デフォルトでは、Windowsオペレーティングシステムで作成される新しいアカウントは、**[user must change the password at next sign in]**に設定されます。このオプションの選択を解除して、アカウントを使用してHP SMHにログインできるようにしてください。

- 14.14.6.8 Windows環境でInternet Explorer 6.0を使用しています。管理サーバを経由してIPアドレスによって検出されたシステムにアクセスする場合、HP SMHにサインインできません。匿名アクセスが有効になっていると、匿名でアクセスできますが、ユーザ名が使用できません。

または

Windows環境でInternet Explorer 6.0を使用しています。管理サーバを経由してIPアドレスによって検出されたデバイスにアクセスする場合、**[管理サーバ証明書 自動インポート]**画面のテキスト ボックスに証明書の詳細情報が表示されません。

この問題は、次の方法でInternet Explorerの設定を調整することによって解決できます。

- Internet Explorerの**[プライバシー]**設定を**[中]**から**[低]**に変更します。（このオプションの使用はおすすめできません。）

設定を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. Internet Explorerで、**[ツール]**、**[インターネット オプション]**の順にクリックします。
2. **[プライバシー]**をクリックします。
3. スライド バーをクリックしたまま、**[低]**にドラッグします。
4. **[適用]**をクリックします。
5. **[OK]**をクリックします。

変更が保存されます。

- 対象のHP SMHのIPアドレスをローカル イン트라ネットのゾーンに追加します。

設定を変更するには、以下の手順に従ってください。

1. Internet Explorerで、**[ツール]**、**[インターネット オプション]**の順にクリックします。
2. **[セキュリティ]**をクリックします。
3. **[イントラネット]**を選択します。
4. **[サイト]**、**[詳細設定]**の順にクリックします。
5. **[次のWebサイトをゾーンに追加する]**フィールドに、HP SMHシステムのIPアドレス（**https://IPアドレス** など）を入力します。
6. **[追加]**をクリックします。
7. **[OK]**をクリックします。
8. **[OK]**を再度クリックします。
9. **[OK]**をクリックします。

変更が保存されます。

- 14.14.6.9 Internet Explorerでサーバ名（**http://サーバ名:2301**）を使用してシステムにアクセスする場合、Windowsの有効な管理者アカウントのユーザ名とパスワードを使用してもサインインできません。ただし、IPアドレス（**http://IPアドレス:2301**）を使用してシステムにアクセスするとサインインできます。

サーバのコンピュータ名にアンダースコア（**_**）が含まれていないか確認してください。含まれている場合は、削除するか、「**_**」（アンダーバー）の代わりに「**-**」（ダッシュ）を使用してください。これで、システム名を使用してログインできるようになります。



注記: システムの名前を変更した後に、Microsoft Internet Information Server (IIS) の設定を変更しなければならない場合があります。

これは、Internet Explorer 5.5または6.0用のMicrosoftセキュリティ パッチMS01-055によって追加されたセキュリティ機能です。この機能により、不適切な名前構文を持つシステムがCookie名を設定できなくなります。Cookieを使用するドメインは、ドメイン名およびシステム名に英数字（**-**または**.**）しか使用できません。Internet Explorerは、システム名にアンダースコア（**_**）などの他の文字が含まれている場合に、そのシステムからのCookieをブロックします。

14.7 セキュリティの問題

14.14.7.1 Service Pack 2を使用してWindows XPシステムをアップデートした後、HP SIMやHPバージョン コントロール レポジトリ マネージャにアクセスできなくなります。原因は何ですか？

Windows XP Service Pack 2は、ソフトウェア ファイアウォールを実装しており、このため、ブラウザがHP SIMおよびバージョン コントロール レポジトリ マネージャにアクセスするために必要なポートにアクセスできません。この問題を解決するには、[例外]を使用してファイアウォールを設定し、ブラウザがHP SIMとバージョン コントロール レポジトリ マネージャによって使用されるポートにアクセスできるようにしてください。

以下の手順を実行することをおすすめします。

1. **[スタート]→[設定]→[コントロール パネル]**の順に選択します。
2. **[Windowsファイアウォール]**をダブルクリックして、ファイアウォールの設定を指定します。
3. **[例外]**を選択します。
4. **[ポートの追加]**をクリックします。
5. 製品名とポート番号を入力します。
ファイアウォール保護に、次の例外を追加します。

表 14-1 ファイアウォール保護の例外

製品	ポート番号
HP SMH非セキュア ポート :	2301
HP SMHセキュア ポート :	2381
HP SIM非セキュア ポート :	280
HP SIMセキュア ポート :	50000

6. **[OK]**をクリックして設定を保存し、**[ポートの追加]**ダイアログ ボックスを閉じます。
7. **[OK]**をクリックして設定を保存し、**[Windowsファイアウォール]**ダイアログ ボックスを閉じます。

この設定によって、SP2のセキュリティ強化はデフォルトのままになりますが、トラフィックは上記のポートを経由できるようになります。このポートは、HP SIMおよびバージョン コントロール レポジトリ マネージャを実行するために必要です。ポート2301および2381はバージョン コントロール レポジトリ マネージャに、ポート280および5000はHP SIMに必要です。アプリケーションで通信するには、各製品について、セキュア ポートと非セキュア ポートを追加する必要があります。

14.14.7.2 X.509証明書を直接HP SMHにインポートできないのはなぜですか？

HP SMHは、証明書リクエストをBase64コード化PKCS #10フォーマットで生成します。この証明書リクエストは、認証機関に提供される必要があります。ほとんどのCAは、**[設定]→[HP System Management Homepage]→[セキュリティ]→[ローカル サーバ証明書]**の順に選択することによってHP SMHに直接インポートできるBase64コード化PKCS #7証明書データを返します。

CAがX.509フォーマットの証明書データを返す場合は、X.509証明書ファイルの名前をcert.pemに変更して、\hp\sslshareディレクトリに保存してください。HP SMHを再起動すると、この証明書が使用されます。

14.14.7.3 PKCS #7証明書データが受け入れられないのはなぜですか？

Mozillaブラウザを使用している場合、メモ帳や他のエディタで証明書のリクエストおよび応答データを切り取って貼り付けると問題が発生することがあります。この問題を回避するために、CAからのどの証明書応答ファイルもMozillaを使用して開いてください。証明書に関する作業では、Mozillaで提供されている[Select All]、[Cut]、および[Paste]操作を使用してください。

14.14.7.4 プライベート キー ファイルがファイル システムによって保護されないのはなぜですか？

Windowsオペレーティング システムを使用している場合、プライベート キー ファイルがファイル システムによって保護されるには、システム ドライブがNTFSフォーマットである必要があります。

- 14.14.7.5 **[設定]→[SMH]→[セキュリティ]→[信頼済みマネジメント サーバ]**の順に選択して、カスタマ作成証明書のPKCS #7データを[HP SIM 証明書データ]フィールドに貼り付けると、エラーが表示されるのはなぜですか？

カスタマ作成証明書のPKCS #7データが**[信頼済みマネジメント サーバ]**フィールドの日付と関連がありません。**[設定]**、→**[HP System Management Homepage]**、**[セキュリティ]**、→**[ローカル サーバ証明書]**の順に選択して、**PKCS #7データを[カスタマによって生成された証明書を、PKCS #7 データにインポート]**フィールドにインポートしてください。**[HP Systems Insight Manager証明書データ]**フィールドは、HP SMHでHP SIMサーバを信頼するために使用します。詳しくは、「**[信頼済みマネジメント サーバ]**」を参照してください。

- 14.14.7.6 Windows 2003CAを使用してサードパーティの証明書をHP SMHに付与できないのはなぜですか？

Windows 2003CAを使用してHP SMH用の証明書を作成するには、以下の手順に従ってください。

1. **[Settings]→[SMH]→[セキュリティ]→[ローカル サーバ 証明書]**ページの順にクリックして、PKCS #10データ パケットを作成します。
2. **Ctrl+C**キーを押してデータをバッファにコピーします。
3. **http://W2003CA/certsrv** (W2003CAはWindows 2003 認証機関システムの名前) に移動し、以下の手順を行います。
 - a. **[証明書を要求する]**を選択します。
 - b. **[証明書の要求の詳細設定]**を選択します。
 - c. **[Base64エンコードCMCまたはPKCS #10 ファイルを使用して証明書の要求を送信するか、またはBase64エンコードPKCS #7ファイルを使用して更新の要求を送信する]**を選択します。
 - d. **Ctrl+V**キーを押して**PKCS #10**データをフィールドに貼り付けます。
4. Windows 2003 認証機関システムで次の手順を実行します。
 - a. **[Start]→[プログラム]→[管理ツール]→[証明機関]**の順にクリックします。
 - b. **[CA (Local)]、[W2003CA/certsrv]** (W2003CAはWindows 2003 認証機関システムの名前) の順にクリックします。
 - c. 保留リクエスト証明書を発行します。
5. **http://W2003CA/certsrv** (W2003CAはWindows 2003 認証機関システムの名前) に移動し、以下の手順を行います。
 - a. **[保留中の証明書の要求の状態]**を選択します。
 - b. **[Base64エンコード]**と**[証明書のダウンロード]**を選択します (証明書チェーンは選択しないでください)。
 - c. ダウンロード ファイルは、certnew.cerです。
 - d. certnew.cerというファイル名をcert.pemに変更します。

- 14.14.7.7 Bastilleを使用するときのセキュリティ オプションを教えてください。

Bastilleは、HP-UXホストのセキュリティを向上させるシステム強化プログラムです。デーモン、システム設定、およびファイアウォールをさらに安全になるように設定します。rcp(1)やrlogin(1)のような不要なサービスやツールを停止したり、WebサーバおよびDNSなどの共通インターネット サービスの脆弱性を制限したりすることができます。



注記: 現在、HP System Management HomepageはPartition Managerをサポートしていません。

システムをロック ダウンするためにBastilleの使用する機能の1つは、IPフィルタリングです。Partition ManagerでIPフィルタリングを使用する際の要件については、Partition Managerのオンライン ヘルプを参照してください。Bastilleの対話型ユーザ インタフェースを使用するときは、Bastilleの尋ねる質問に答えるにあたってこれらの問題に注意してください。また、Bastilleには、/etc/opt/sec-mgmt/bastilleにある次のファイルで表される3つのインストール時のセキュリティ オプションもあります。

- **HOST.config** ホストベース ロックダウン。IPFilter設定なし。この設定を使用すると、Partition Managerには影響を与えません。
- **MANDMZ.config** 緊密なロックダウン。ただし、共通管理プロトコルおよびツールの使用する一部のネットワークは開いたままにします。たとえば、この設定を使用してもWBEMは動作します。この設定でPartition Managerを起動するには、SSHを使用するか、ポート2301および2381を有効にするように変更する必要があります。ポート2301および2381が無効なシステムでPartition Managerの起動を有効にするには、エントリを追加してIPフィルタリングを調整します。たとえば次のとおりです。

```
pass in quick proto tcp from any to any port = 2301 flags S/0xff keep state keep frags
pass in quick proto tcp from any to any port = 2381 flags S/0xff keep state keep frags
```

これらを、`/etc/opt/sec-mgmt/bastille/ipf.customrules`に追加してからBastilleを起動します。
詳しくは、*ipf(5)*を参照してください。
- **DMZ.config** 緊密なロックダウン。この設定でPartition Managerを起動するには、SSHを使用する必要があります。
また、Bastilleが有効なシステムをリモートで管理するときに、BastilleはPartition Managerに影響を与えます。HOST.configまたはMANDMZ.config設定が使用されている場合、証明書を正常に転送した後で、Partition Managerは上述のように動作します。ただし、DMZ.config設定は、WBEMトラフィックをブロックし、Partition Managerがシステムをリモートで管理できなくします。
Bastilleについて詳しくは、*bastille(1M)*および*Bastille User Guide*を参照してください（`/opt/sec-mgmt-bastille/docs/user-guide.txt`にインストールされています）。

14.8 その他の問題

- 14.14.8.1 HP SMHの3.xから2.xへのダウングレードに問題があります。
HP SMHの3.xから2.xに正常にダウングレードするには、HP SMHサービスを停止し、以下の手順に従ってダウングレードを実行してください。
1. `$/etc/init.d/hpsmhd stop`
 2. `$rpm --oldpackage --U hpsmh-old version.rpm`
- 14.14.8.2 HP SMHをシステムにインストールできないのはなぜですか？
HP SMHをインストールするには、ロードするために256色以上を必要とするJavaバージョンが必要です。



注記: これは、Windowsのみ適用されます。

- 14.14.8.3 **[管理プロセッサ]**リンクをクリックすると、ページが表示できないことを示すエラーが表示されるのはなぜですか？
マネジメント プロセッサの管理者は、ポート80以外のポートを使用するようにマネジメント プロセッサ上のWebサーバを設定しています。HP SMHは、そのパラメータにアクセスできず、マネジメント プロセッサがポート80にあると想定します。
- 14.14.8.4 rootではない場合にHP-UXまたはLinux環境にHP SMHをインストールできないのはなぜですか？
適切なアクセス権を持つには、HP SMHのルートとしてログインする必要があります。
- 14.14.8.5 Serviceguard Managerプラグインで、**[Display Consolidated Syslog]**ボタンを選択すると再度認証が必要になるか、「ページが見つかりません」というエラーが発生する場合があります。
「ページが見つかりません」というエラーが表示されたら、ブラウザの**[更新]**ボタンを押して、ページを正しく表示させます。または、再度認証する必要があります。
- 14.14.8.6 **[Memory Utilization]**プロパティ ページの**[Total Swap Space Size]**フィールドの値には、デバイスまたはファイル システムとしてシステムに存在するスワップ領域と、メモリ リソースとして存在していない擬似スワップ サイズが含まれます。実際のデバイスおよびファイル システムのスワップ領域は、このページには表示されません。

現在、HP SMHプロパティ ページから実際のデバイスおよびファイル システムのスワップ領域のサイズを取得することはできません。HP-UXコマンドラインから、swapinfoコマンドを使用すると、この情報を取得することができます。

サービスおよびサポート

HP SMHに対するサポートは、基本となるハードウェアのサポートの補助として提供されています。HP サポート ページは、製品、サービス、およびサポートに関するさまざまなHP SMHのリソースを提供します。

- Software Depot homeでHP SMHにアクセスします。<http://www.hp.com/go/softwaredepot>にアクセスして、**[Security and manageability]**を選択します。**[HP System Management Homepage]**リンクを検索します。Software Depot homeのLinuxリンクを選択するとLinux Integrityのサポートが表示されます。**HP Integrity Essentials Pack for Linux**を検索してください。
- *HP ProLiant Essentials software*ページ<http://www.hp.com/servers/manage>にアクセスします。豊富なシステム マネジメント製品およびサービス関連の情報が掲載されています。
- HP製品のメンテナンス/サポート、フォーラム、トレーニング/教育HPについての情報は、ITリソース センタ<http://itrc.hp.com>にアクセスしてください。
- HP製品についてのご質問は、HPサポート フォーラム<http://forums.itrc.hp.com>にお問い合わせください。

各自の設定を詳しく記録しておく、トラブルシューティング プロセスを大幅にスピードアップできます。HPのサービス窓口からサポートを受ける場合は、現状を維持して、以下を参照してください。

- 管理システムのメーカー、モデル、およびシリアル番号情報
- バージョン番号、適用されたService Packのリスト、HP PSPのバージョン、および適用されたInsight エージェントの名前とバージョンなどの、オペレーティングシステム情報、オペレーティング環境情報（HP-UX）
- LinuxおよびWindowsの場合ハードウェア コンフィギュレーション情報
 - Surveyユーティリティの出力、またはHP Insight Diagnosticsからの出力、または[システムの参照(Inspect)]の印刷出力
 - システム コンフィギュレーション ユーティリティの印刷出力
 - [システムの参照 (Inspect)]ユーティリティまたはシステム コンフィギュレーション ユーティリティの印刷出力に示されない、HP製およびコンパック製以外の装置の説明

第15章 ご注意

保証

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett-Packardは、本書に関して、いかなる種類の保証（特定の目的のための商品性または適合性に関する黙示の保証を含む）もいたしません。本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

Hewlett-Packard製品に適用される特定保証条項の複写、および交換部品は、最寄の販売保守事務所から入手できます。

米国政府ライセンス

本書で取り扱っているコンピュータ ソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211および12.212に従って、商業用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および商業用製品の技術データ（Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items）は、ベンダ標準の商業用使用許諾のもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権表示

© Copyright 2004-2008 Hewlett-Packard Development Company, LP All rights reserved. 本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

商標表示

すべてのHP 9000コンピュータ上のHP-UX Release 10.20以降およびHP-UX Release 11.00以降（32ビット構成および64ビット構成）は、Open Group UNIX 95ブランドの製品です。

Intel®およびItanium®は、米国ならびにその他の国におけるIntel Corporationの商標または登録商標です。

Javaは、Sun Microsystems, Incの米国における商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国における登録商標です。

MS-DOS®, Microsoft®, およびWindows®は、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。

UNIXは、The Open Groupの米国ならびに他の国における登録商標です。

出版履歴

出版の日付と部品番号は、最新版ができるたびに変更します。出版の日付と部品番号は、最新版ができるたびに変更します。マニュアルの部品番号は、改訂が行われるたびに変更します。新版が使用可能になったときに新版を受け取るため、適切な製品サポート サービスを受けてください。詳細については、HP販売担当者に問い合わせてください。

本書に関するご意見は、次の住所にお寄せください。

<http://docs.hp.com/ja/feedback.html>

リビジョン履歴

出版履歴

改訂 第16版

2008年11月

製品番号：466304-001. HP System Management Homepage 3.0の初版は、次を含む、LinuxとWindowsの情報とタスクを記載しました。

- 新しいユーザ インタフェース
- WindowsでのKerberosのサポート
- コマンド ライン インタフェースのサポート

- ポート2301の無効化機能
- ユーザ設定可能なユーザ インタフェース プロパティ
- セッションおよびユーザ タイムアウトのユーザ制御
- ログのローカリゼーション
- IPv6のサポート

改訂 第15版 2008年2月

製品番号：436304-007. 第15版は、HP SMH v2.1.11リリースでのWindowsとLinuxの新しいハードウェアサポートとログ ファイルサイズのコントロール、別名証明書のサポートを行う新しい機能を追加し、オンライン ヘルプは2つの言語に翻訳しました。

改訂 第14版 2007年12月

製品番号：436304-008. 第14版は、HP-UX HP SMH v2.2.7リリースの新しい機能を追加し、HP-UXリリース用にオンライン ヘルプを9ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第13版 2007年8月

製品番号：436304-006. 第13版は、HP SMH v2.1.10-00リリースのIPF LinuxとWindowsの新しい機能を追加し、オンライン ヘルプを2ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第12版 2007年6月

製品番号：436304-005. 第12版は、HP SMH v2.1.10リリースで修正された新しいセキュリティを追加し、オンライン ヘルプを2ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第11版 2007年6月

製品番号：436304-004. 第11版は、HP-UX HP SMH v2.2.6リリースの新しい機能を追加し、HP-UXリリース用にオンライン ヘルプを9ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第10版 2007年4月

製品番号：436304-003. 第10版は、HP SMH v2.1.8リリースで修正された新しいセキュリティを追加し、オンライン ヘルプを2ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第9版 2007年2月

製品番号：436304-001. 第9版は、HP-UX HP SMH v2.2.5リリースの新しい機能を追加し、HP-UXリリース用にオンライン ヘルプを9ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第8版 2007年1月

製品番号：436304-002. 第8版は、HP SMH v2.1.7リリースで新しいオペレーティング システムおよびブラウザのサポートを追加し、オンライン ヘルプを2ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第7版 2006年12月

製品番号：365395-009. 第7版は、HP-UX HP SMH v2.2.5リリースで修正された不具合を追加し、HP-UXリリース用にオンライン ヘルプを9ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第6版 2006年11月

オンライン ヘルプ システムの改版履歴に間違いがありました。HP System Management Homepageの第6版は、存在しません。

改訂 第5版 2006年9月

製品番号：365395-008. 第5版は、HP-UX HP SMH v2.2.4リリースで変更された機能を追加し、HP-UXリリース用にオンライン ヘルプを9ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第4版 2006年6月

製品番号：365395-007. 第4版は、HP-UX HP SMH v2.2.3リリースで変更された機能を追加し、オンライン ヘルプを9ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第3版 2005年12月


製品番号：365395-005. 第3版は、HP-UX HP SMH v2.2.1リリースで変更された機能を追加し、オンライン ヘルプを9ヶ国語に翻訳しました。

改訂 第2版 2005年2月

製品番号：365395-004. 第2版は、HP-UX HP SMH v2.2リリースの情報とタスクを追加しました。

用語集

Accounts for Users & Groupsツール (ugweb)	HP-UX Accounts for Users and Groups (ugweb) ツールは、ローカル システム上のユーザ アカウントおよびグループ アカウントの管理に使用します。このツールは、NISシステム上のユーザ アカウントの管理にも使用できます。ugwebツールは、HP-UX System Administration Manager (SAM) ツールまたはHP SMHから起動することができます。
AS	参照 Kerberos認証サーバ。
CA	参照 認証機関。
CLI	参照 コマンド ライン インタフェース。
Disks and File Systemsツール (fsweb)	HP-UX Disks and File Systems (fsweb) ツールは、ファイル システム、論理ボリューム、およびディスクの管理に使用します。Disks and File Systemsツールは、HP-UX System Administration Manager (SAM) ツールまたはHP SMHから起動することができます。
DNS	参照 ドメイン ネーム サービス。
evweb	参照 System Fault Managementツール。
fsweb	参照 Disks and File Systemsツール。
GUI	参照 グラフィカル ユーザ インタフェース。
HP Insightマネジメントエージェント	ユーザの介在なしに、情報を定期的に収集したり、その他のサービスを実行したりするプログラム。
HP SIM	参照 HP Systems Insight Manager。
HP SMH	参照 HP System Management Homepage。
HP System Management Homepage (HP SMH)	HP System Management Homepage (HP SMH) は、HP-UX、Linux、およびMicrosoft Windows のオペレーティングシステム上で、HPサーバ用の単一のシステム管理を統合して簡素化するWebベースのインタフェースです。HP SMHは、HPのWebベースのエージェントおよび管理ユーティリティからのデータを統合することによって、単一のサーバのハードウェア障害/ステータス監視情報、パフォーマンスデータ、システムスレッシュホールド、診断情報、およびソフトウェアバージョン管理情報を表示するための使いやすい共通インタフェースを提供します。HP SMHは、HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアのスイートによって使用されるソフトウェアに組み込まれた一部で、HTTPおよびHTTPSを介して通信します。HP Webベース システム マネジメント ソフトウェアに一定の機能とセキュリティのセットを提供します。
HP Systems Insight Manager (HP SIM)	HP製のシステム、クラスタ、デスクトップ、ワークステーション、ハンドヘルドなど、さまざまなシステムを管理できるシステム マネジメント ソフトウェア。HP SIMは、HP Insightマネージャ7、HP Tootools、HP Servicecontrolマネージャの長所を組み合わせることにより、Windows、Linux、HP-UXを実行しているHP ProLiantシステム、HP Integrityシステム、HP 9000システムを管理する、統一されたツールとしてお使いいただけます。HP SIMソフトウェアの中核部分では、すべてのHP製サーバプラットフォームの管理に必要な機能を提供します。また、HP SIMは、HP製ストレージ、電源、クライアント、プリンタ製品用のプラグインにより広範囲なシステム管理を提供するように拡張することもできます。Rapid Deployment Pack、Performance Management Pack、Workload Management Packのプラグインは、ハードウェア資産の完全なライフサイクルの管理機能を追加したソフトウェアをシステム管理者が選択することができます。HP SIMについて詳しくは、HPのWebサイト http://www.hp.com/jp/hpsim を参照してください。
HP Webベース システム マネジメント ソフトウェア	HP製Web対応製品を管理するソフトウェア。
HP-UX System Administration Manager (SAM)	HP-UX 11i v1 (B.11.11) およびHP-UX 11i v2 (B.11.23) では、システム管理のプライマリインタフェースです。 HP-UX 11i v3 (B.11.31) では、HP SMHがHP-UXシステム管理のタスクとしてプライマリインタフェースを提供します。既存のSAM機能はそのまま利用できます。
HPバージョン コントロール エージェント (VCA)	サーバにインストールされたHPのソフトウェアをユーザが確認できるようにするために、そのシステムにインストールされているInsightマネジメントエージェント。HPバージョンコントロール エージェントは、HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャを参照するよ

	うに設定できるため、バージョンの比較やレポジトリからのソフトウェアの更新が簡単になります。
HPバージョン コントロールレポジトリ マネージャ (VCRM)	ユーザが定義するディレクトリ/レポジトリに格納されたHP提供のソフトウェアをユーザが管理できるようにするInsightマネジメント エージェント。
HTTPS	参照 Secure HTTP.
Integrity Support Pack	HPによって、1つにバンドルされ、特定のオペレーティング システムで動作することが確認されたHPのソフトウェア コンポーネントのセット。Integrity Support Packには、ドライバ コンポーネント、エージェント コンポーネント、およびアプリケーションとユーティリティのコンポーネントが含まれています。これらはすべて一緒にインストールできることが確認されています。
IP	参照 インターネット プロトコル (IP) レンジ.
kcweb	参照 Kernel Configurationツール.
KDC	参照 Kerberos Key Distribution Center.
Kerberos	MITで開発された信頼のできる他社認証プロトコル。異なったホストとユーザがお互いを認証して確認することができます。
Kerberos Key Distribution Center	Kerberos Key Distribution Center。Authentication ServerおよびTicket Granting Serverから構成されます。
Kerberos Ticket Granting Server	ユーザがパスワードを一度しか入力する必要がなくなるように、間接的なレイヤを追加します。チケットとセッション キーは、その後すべてのチケットで使用されるパスワードから入力されます。通常のサービスにアクセスする前に、ユーザはTGSと通信するためにAuthentication Server (AS) からチケットを要求します。このチケットは、 <i>ticket granting ticket</i> (TGT)と呼ばれます。 <i>initial ticket</i> ということもあります。TGT用のセッション キーはユーザの長期キーを使用して暗号化されます。したがって、ユーザに対するASの応答から復号するにはパスワードが必要になります。
Kerberos認証サーバ	ユーザ アカウント記録の認証のみを目的とするサービス。ASは、ユーザの導入機能として、およびASに登録された共有秘密鍵を使用したサービスとして動作します。
Kernel Configurationツール (kcweb)	HP-UX Kernel Configuration (kcweb) ツールは、カーネル調整、モジュール、およびアラームの管理に使用します。Kernel Configurationツールは、HP-UX System Administration Manager (SAM) ツールまたはHP SMHから起動することができます。
MIT	マサチューセッツ工科大学。
parMgr	参照 Partition Manager.
Partition Manager (parMgr)	HPサーバシステム上のnPartitionsの構成および管理に適したGUIをシステム管理者に提供します。コマンドやパラメータを覚えていなくても、コンプレックスの構成タスクを実行することができます。グラフィカルなディスプレイでnPartitions、セル、I/Oシャーシやその他のコンポーネントを選択し、メニューからアクションを選択するだけです。Partition Managerを使用して、次のタスクを実行することができます。nPartitionsの作成、変更、削除、コンプレックス内のnPartitions構成の検証、コンプレックスの潜在的な構成やハードウェア問題のチェック、コンプレックスのハードウェア リソースの管理
	注記: 現在、HP System Management HomepageはPartition Managerをサポートしていません。
pdweb	参照 Peripheral Deviceツール.
Peripheral Device ツール (pdweb)	HP-UX Peripheral Device (pdweb) ツールは、I/OデバイスおよびOLRADカードをすばやく簡単に表示することができます。また、再起動しなくてもカードの追加や交換をサポートする、システムのホットプラグPCIスロットの管理に役立ちます。すべてのHP-UXシステムでは、pdwebはI/Oデバイスを表示し、選択したデバイスのデバイス ファイルを作成することができます。Peripheral Deviceツールは、HP-UX System Administration Manager (SAM) ツールまたはHP SMHから起動することができます。
PKI	参照 パブリック キー インフラストラクチャ.

ProLiant Support Pack	HPによって、1つにバンドルされ、特定のオペレーティング システムで動作することが確認されたHPのソフトウェア コンポーネントのセット。ProLiant Support Packには、ドライバ コンポーネント、エージェント コンポーネント、およびアプリケーションとユーティリティのコンポーネントが含まれています。これらはすべて一緒にインストールできることが確認されています。
Red Hat Package Manager (RPM)	強力なパッケージ マネージャで、個々のソフトウェア パッケージをビルド、インストール、クエリ、確認、アップデート、およびアンインストールするために使用できます。パッケージは、ファイルのアーカイブと、名前、バージョン、説明などのパッケージ情報で構成されます。
RPM	参照 Red Hat Package Manager.
SAM	参照 HP-UX System Administration Manager.
Secure HTTP (HTTPS)	Web経由でのデータの安全な送信を支援する拡張されたHTTPプロトコル。
Secure Shell (SSH)	ネットワーク経由で他のシステムにサインインして、そのシステムでコマンドを実行することを可能にするプログラム。また、SSHを使用すると、あるシステムから別のシステムにファイルを移動でき、安全でない経路でも安全な認証と通信を提供します。
Secure Sockets Layer (SSL)	HTTPとTCPの間にあって、クライアントとサーバの間でプライバシーやメッセージ整合性を提供する標準プロトコル層。SSLの一般的な使用法は、サーバの認証です。これにより、クライアントは、システムがそれであると主張するところのシステムと通信していることを確信できます。これは、アプリケーションのプロトコルに依存しません。
Security Attributes Configuration ツール (secweb)	HP-UX Security Attributes Configuration (secweb) ツールは、セキュリティ属性のsystem-wide およびper-user (ローカル ユーザおよびNISユーザ) 値の表示や設定に使用します。また、アカウントのロック情報も提供します。Security Attributes Configuration ツールは、HP-UX System Administration Manager (SAM) ツールまたはHP SMHから起動することができます。
secweb	参照 Security Attributes Configuration ツール.
SSH	参照 Secure Shell.
SSL	参照 Secure Sockets Layer.
STE	参照 セキュア タスク実行.
Survey ユーティリティ	ハードウェアとオペレーティング システムの設定情報を収集および配信するエージェント (またはオンライン サービス ツール)。この情報は、サーバがオンラインのときに収集されます。
System Fault Management ツール (evweb)	System Fault Management (evweb) ツールは、WBEM インジケータの表示および管理に使用します。evweb ツールは、HP SMHから起動することができます。
TGS	参照 Kerberos Ticket Granting Server.
ugweb	参照 Accounts for Users & Groups ツール.
URI	インターネット上のリソースにアクセスする方法を提供します。URL (Uniform Resource Locator) は、URI (Uniform Resource Indicator) の種類です。
URL	World Wide Web上のリソースのグローバル アドレス。URL (Uniform Resource Locator) は、URI (Uniform Resource Indicator) の種類です。
VCA	参照 HPバージョン コントロール エージェント.
VCRM	参照 HPバージョン コントロール レポジトリ マネージャ.
WBEM	参照 Webベース エンタープライズ管理.
Webベース エンタープライズ管理 (WBEM)	多様なリソースの監視や制御を行うための共通モデル (記述など) とプロトコル (インタフェースなど) を定義する、プラットフォームやリソースに依存しない DMTF (Distributed Management Task Force) 標準。HP WBEM Services for HP-UXは、このDMTF WBEM標準をHP-UXに実装した製品です。
インターネット プロトコル (IP) レンジ	指定された範囲に含まれるIPアドレスを持つシステム。
インブレース	限定的に、インブレース インストールは、ローカルにインストールすることを意味します。

グラフィカルユーザインタフェース (GUI)	コンピュータのグラフィック機能を利用してプログラムを簡単に使用できるようにするプログラム インタフェース。HP SMHのGUIはWeb対応なので、Webブラウザで表示されます。
コマンドラインインタフェース (CLI)	オペレーティング システムのコマンド シェルから直接実行できる一連のコマンド。
シングルサインオン	管理対象システムごとに認証を受けなくてもHP Systems Insight Manager (HP SIM) から任意の管理対象システムにアクセスできるように、HP SIMにアクセスしている認証済みユーザに与えられる権限。HP SIMは最初の認証ポイントであり、他の管理対象システムにはHP SIMからアクセスする必要があります。
ステータス タイプ	HP SMHで定義される指定されたステータス タイプ (重大、障害/メジャー、劣化/マイナー、正常、および不明) のシステム。
セキュア タスク 実行 (STE)	管理対象システムからのタスクの安全な実行。HP SMHのこの機能により、タスクを要求するユーザがそのタスクを実行するための適切な権限を持っていることが保証されます。また、データを盗聴から保護するために要求が暗号化されます。
ソフトウェアの更新	ソフトウェアやファームウェアをリモート更新するためのタスク。
ドメイン ネーム サービス (DNS)	ドメイン名をIPアドレスに変換するサービス。
バージョンコントロール	Windows/Linux ProLiantシステム、およびHP-UXオペレーティング システムのソフトウェア ディストリビュータのために、Windowsシステムにインストールされたバージョン コントロール レポジトリ マネージャとして呼ばれます。管理対象のすべてのProLiantまたはIntegrityシステムのソフトウェア ステータスの概要を提供し、それらのシステム上であらかじめ設定された条件に基づいて自動的にシステム ソフトウェアとファームウェアのアップデートを行うことができる。バージョン コントロールは、古いシステム ソフトウェアを実行しているシステムを識別して、アップグレードを利用できるかどうかを示し、アップグレードの理由を提供する。HP-UXシステムでは、ソフトウェア ディストリビュータは、複数のHP-UXに対してHP Systems Insight Manager CMSから起動することができます。
パブリック キー インフラストラクチャ (PKI)	企業がインターネット上での通信と商取引をセキュリティ保護することを可能にするソフトウェア、暗号化技術、およびサービスの組み合わせ。
プリンシパル	Kerberos領域に提示されたユーザまたはサービス/ホストで、お互いに認証することができます。
マルチホーム ユーザ	証明書に複数の名前を設定します。
ユーザ アカウント	HP System Management Homepageへの有効なサインインを持つネットワーク ユーザ。
レポジトリ	HP System Management Homepage (HP SMH) にサインインするために使用されるアカウント。これらのアカウントは、Windowsのローカル ユーザ/ドメイン アカウント、HP-UX/Linuxのユーザ アカウントにHP SMH内での権限レベルとページング属性を関連付けます。
外部サイト	管理対象クラスタに関する重要な情報 (ユーザ、ノード、ノード グループ、ロール、ツール、権限など) を保存するデータベース。
検索条件	他社製アプリケーションのURL。
検索条件	要求されている情報のサブセットをすべての情報のセットから定義するために使用される変項 (情報) のセット。フィルタリングできる情報セットには、動作情報や一部のシステム情報などがあります。フィルタは、許可フィルタとその後の制限フィルタで構成されます。これら2つのフィルタリング処理の結果は、グループと呼ばれる。フィルタの例としては、表示可能な情報を作成したり管理動作を実行させたりするSQLステートメントなどがあります。
注意	示されている手順に従わないと装置が損傷したりデータが消失する場合がある付加的な説明。
自己署名の証明書	認証機関 (CA) 自体の証明書。このため、対象とCAは同じです。 参照 証明書, 認証機関。
証明書	対象のパブリック キーとその対象に関する識別情報含む電子文書。証明書は、認証機関 (CA) によって署名され、キーと対象識別情報を結合します。
認証機関 (CA)	電子署名とパブリック-プライベート キー ペアを作成するために使用される電子証明書を発行する信頼された第三者機関または企業。このプロセスでのCAの役割りは、固有の証明書を

付与された個人が、その個人がそうであると主張するところの者であることを保証することです。

領域

Kerberosドメイン。通常、大文字の、ネットワークのドメイン名です。たとえば、smhkerberos.comのKerberos領域は、慣例的にSMHKERBEROS.COMと呼ばれています。

索引

記号

リリース履歴, 85
信頼済みマネジメント サーバ証明書
セキュリティ, 44

C

CLI設定
HP SMH, 65

I

IP限定サインイン
セキュリティ, 37
IPバインド
セキュリティ, 35

K

Kerberosユーザ グループ
セキュリティ, 44

M

MIT
Kerberosユーザ グループ, 44

S

SNMP設定
HP SMH, 31
SAM
ログ, 56

U

UIオプション
HP SMH, 31
UIプロパティ
HP SMH, 31

W

webapps
HP SMH, 59
インテグレートド エージェント, 59
その他のエージェント, 59

あ

アクセス
信頼関係, 15

え

エラー ログ
ログ, 56

か

概要
HP SMH, 9
使用開始, 11

く

クレジット
HP SMH, 63

け

言語
HP SMH, 57

こ

ご注意, 85

さ

サインアウト
使用開始, 19
サインイン
使用開始, 11
サポート
HP SMH, 61
参照
トラブルシューティング, 84

し

自動インポート証明書
証明書, 18
セキュリティ, 18
出版履歴, 85
使用開始
概要, 11
サインアウト, 19
サインイン, 11
信頼関係, 15
タイムアウトの設定, 17
商標, 85
証明書
自動インポート証明書, 18
信頼モード, 42
信頼済みマネジメント サーバ証明書, 44
信頼済みマネジメント サーバ証明書
証明書, 44
信頼モード
証明書, 42
セキュリティ, 42

せ

セキュリティ
HP SMH, 33
IP限定サインイン, 37
IPバインド, 35
Kerberosユーザ グループ, 44
自動インポート証明書, 18
信頼関係, 15
信頼済みマネジメント サーバ証明書, 44
信頼モード, 42
タイムアウト, 40
タイムアウトの設定, 17

- 匿名アクセス, 34
- 別名証明書, 39
- ポート2301, 40
- ユーザグループ, 48
- ローカル アクセス, 34
- ローカル サーバ証明書, 38
- 設定
 - HP SMH , 27

- た
- タイムアウト
 - セキュリティ, 40
 - タイムアウトの設定, 17
- タイムアウトの設定
 - 使用開始, 17
 - セキュリティ, 17
 - タイムアウト, 17
- タスク
 - HP SMH , 51

- ち
- 著作権, 85

- つ
- ツール
 - HP SMH , 53

- て
- データ ソース
 - HP SMH , 30

- と
- 匿名アクセス
 - セキュリティ, 34
- トラブルシューティング
 - HP SMH , 75
 - 参照, 84

- な
- ナビゲート
 - HP SMH , 21

- ふ
- ファイアウォール
 - ファイアウォールの設定, 15
- ファイアウォールの設定
 - 使用開始, 15
 - セキュリティ, 15
 - ファイアウォール, 15
- ファイルの位置
 - HP SMH , 73

- へ
- 米国政府ライセンス, 85
- ページ
 - HP SMH , 24
- 別名証明書
 - セキュリティ, 39

- ほ
- ポート2301
 - セキュリティ, 40
- ホーム
 - HP SMH , 25
- 保証, 85

- め
- メニュー
 - HP SMH , 29, 30

- も
- 問題
 - 信頼関係, 15

- ゆ
- ユーザグループ
 - セキュリティ, 48
- ユーザ設定
 - HP SMH , 32

- ろ
- ローカル アクセス
 - セキュリティ, 34
- ローカル サーバ証明書
 - セキュリティ, 38
- ログ
 - HP SMH , 55
 - SAMログ, 56
 - System Management Homepageログ, 55
 - エラー ログ, 56